

平成27年6月18日
沖縄しまたて創立30周年
記念講演会



観光とインフラ整備 次なる展開に向けて

尾澤 卓思

本日の要旨

1. 沖縄における観光客1000万人時代のインフラ整備

- ①政策提言
- ②具体的な活動
- ③6つの分野のシナリオ

2. 次なる展開に向けて



「次なる展開」とは？

- ①有識者100人に聞く(インタビュー)
- ②現シナリオの充実
- ③新たなシナリオの検討
 - ・観光戦略とインフラ整備
 - ・MICE
 - ・鉄軌道

3. 沖縄観光インフラカードの発行



シナリオ

- ①情報インフラによる観光振興

「情報発信の充実」

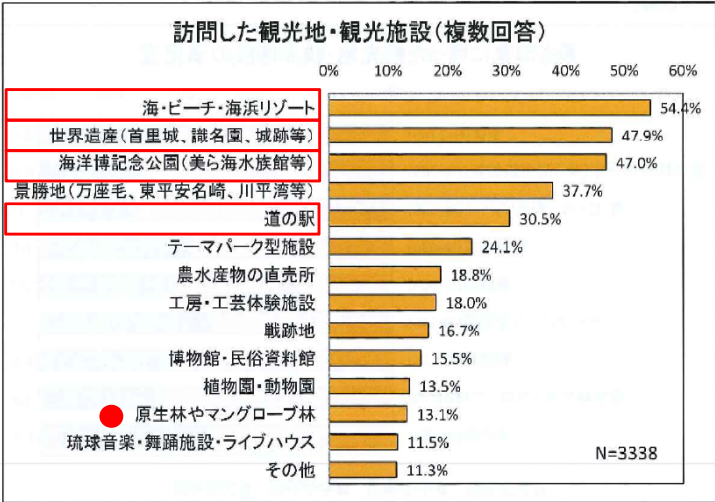
沖縄県の観光客の目標

- 沖縄県では、観光を県経済のリーディング産業と位置付け、平成33年度入域観光客数1000万人を目標。
- 沖縄観光の満足度に関する調査によると、旅行中に訪問した観光地・観光施設において、首里城などインフラが上位。
- 沖縄の観光を支えているのは「インフラ整備」である。

沖縄県観光振興基本計画（第5次）（平成24年度～平成33年度）

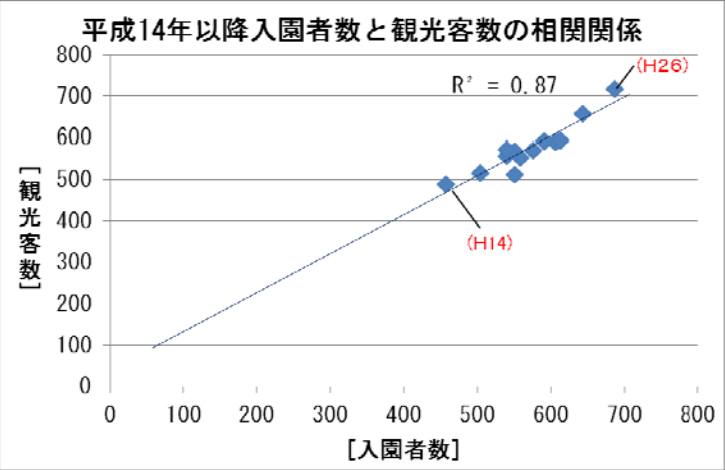
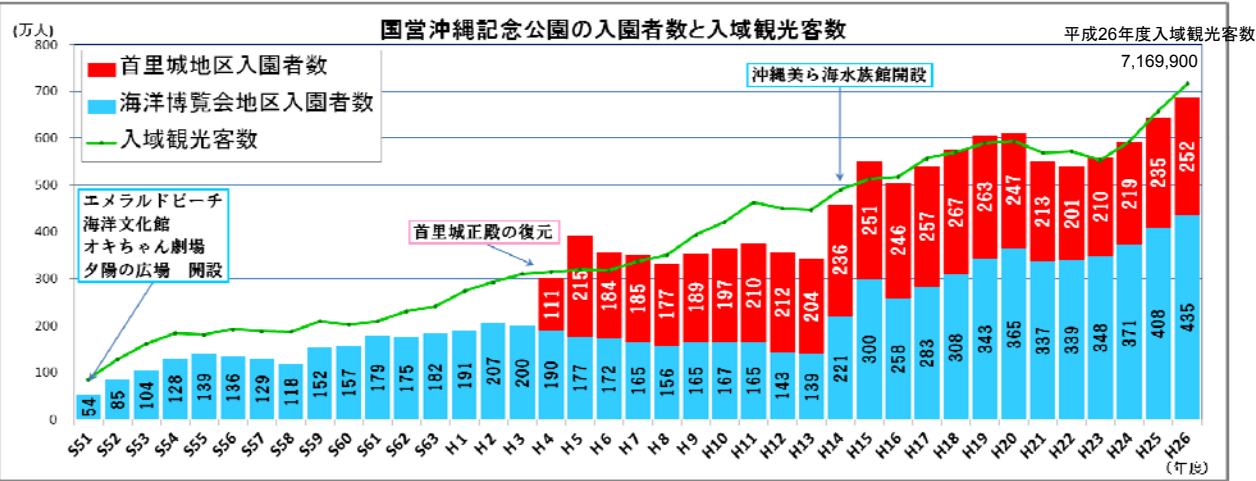
【平成33年度 達成目標】

- 1. 観光収入 1兆円
- 2. 観光客一人当たり県内消費額 10万円
- 3. 平均滞在日数 5日
- 4. 人泊数 4,027万人
- 5. 入域観光客数 1,000万人（国内客800万人・外国客200万人）



出典：沖縄観光の満足度（平成24年度 観光統計実態調査（沖縄県））

【国営沖縄記念公園入園者と沖縄県観光客数の推移】



沖縄における観光客1000万人時代のインフラ整備

- 沖縄観光振興に貢献するインフラ整備を明らかにし、6つの分野でシナリオを作成し、政策提言を実施。
- 各事業の縦割りの展開を観光の観点から横串を刺した形で整理。
- 観光振興の目的・目標に対し、インフラの総合力の重要性をわかりやすく提示。
- 観光とインフラの融合という新たな視点でのインフラ整備を推進。
- 観光客のみならず県民にとって便利で質の高いインフラ整備を実現。

6つの分野のシナリオ

1. 観光資源の整備
(インフラは観光資源)
2. 観光地等の地域支援
(沖縄らしい魅力のある地域づくり)
3. 交通網の整備
(交通拠点とネットワークの構築)
4. 情報発信の拡充
(交流拠点からの発信)
5. 環境保全・再生
(保全・再生技術の蓄積と活用)
6. 防災・危機管理
(迅速かつ適切な初動対応の確立)

具体的な活動

1. 6つの分野のシナリオを作成・公表
(政策提言)
2. 講演・シンポジウムの開催
(経済界や土木学会等)
3. パネル「観光とインフラ展」の開催
(ショッピングセンターやイベント会場等)
4. 沖縄観光インフラカードの発行
(観光とインフラの融合)
5. 有識者等へのインタビューの新聞掲載
(専門紙で連載)
6. 新たな施策の検討
(将来展望)

①観光資源の整備

- 沖縄中南部は、港湾事業などによる人工ビーチが多い。
- 離島架橋は、交通の利便性向上のみならず美しい景観から観光拠点となる。
- ダムは、治水や利水のみならず施設やダム湖を活かした観光拠点を形成。6ダムで「沖縄北部ダムツーリズム」を推進。
- 国営沖縄記念公園は、年間687万人と沖縄観光の中心的存在。

人工ビーチ 位置図

●港湾事業(国土交通省)
●沿岸事業(国土交通省)
●沿岸・公園事業(国土交通省)
●公園事業(国土交通省)
●港湾事業(国土交通省)
●港湾事業(国土交通省)

海洋公園
エメラルドビーチ
名護21世紀の森ビーチ
ナミビーチ
宇留泊(ビーチ)
伊良部ビーチ
宇留泊ビーチ
サンセットビーチ※2
アラハビーチ
トロピカルビーチ
波の上ビーチ
豊崎美らSUNビーチ※2
美々ビーチいとまん

●名護21世紀の森ビーチ
●宇留泊(ビーチ)
●伊良部ビーチ
●宇留泊ビーチ
●サンセットビーチ※2
●アラハビーチ
●トロピカルビーチ
●波の上ビーチ
●豊崎美らSUNビーチ※2
●美々ビーチいとまん

※1埋立地造成は国、砂浜部分は県・市の事業で整備
※2砂浜部分は他事業で整備

平良港
トウリバー地区
「サンセットビーチ」※1
石垣港
新港地区「人工ビーチ」※1
博愛わいおいビーチ

離島架橋 位置図

●道路整備事業
●鉄道整備事業

伊平屋村
野南大橋 (橋長320m, H16.3m)
座間味村
阿嘉大橋 (橋長200m, H10.5m)
宮古島市
池間大橋 (橋長142m, H4.2m)
伊良部大橋 (橋長350m, H27.1m)
糸間大橋 (橋長160m, H7.3m)
石垣市

古宇利大橋 (橋長192m, H17.2m)
ワルミ大橋 (橋長315m, H22.1m)
瀬底大橋 (橋長72m, S80.2m)
屋我地大橋 (橋長300m, H6.3m)
平家渡海中大橋 (橋長200m, H10.3m)
浜比嘉大橋 (橋長300m, H9.2m)

沖縄北部ダムツーリズム

国営沖縄記念公園

②沖縄らしい魅力のある地域づくり

- インフラ整備により沖縄らしい風景を実現し観光客や地域にも質の高いインフラを提供。
- 沖縄の歴史、風土、環境、景観に配慮した魅力のある官庁施設等の整備。



■沖縄らしい形態の表現



長大な庇が深い影をつくる「雨端」



格子状や網代状に竹を組んだ「チニブ」



景観づくり



古都・首里の城下町にふさわしい沿道（龍潭線（県道29号線））景観づくり

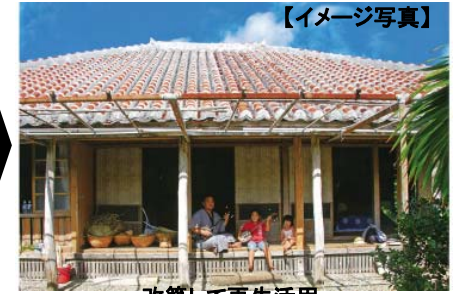
電線の地中化



那覇市（一般国道58号）

電線を地中化により安全で快適な通行空間の確保、都市災害の防止、景観の向上等

空家の再生



【イメージ写真】

空き家の古民家

改築して再生活用

空き家の古民家を交流・展示施設や体験宿泊施設等に改築

③交通網の整備

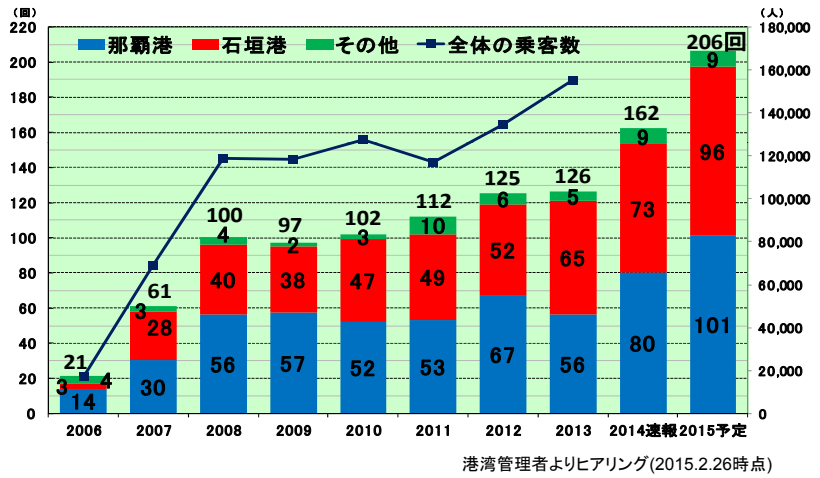
- 沖縄へのクルーズ船の寄港回数と乗客数は年々増加。那覇港、石垣港において、増加するクルーズ需要やクルーズ船の大型化への対応が重要。(複数のクルーズ船バースが必要)
- 航空需要の増加により、滑走路増設に着手、平成32年度供用開始を目指す。2本の滑走路により、トラブル発生時も運航が可能。(リスク回避)

港湾整備

那覇港旅客船バース

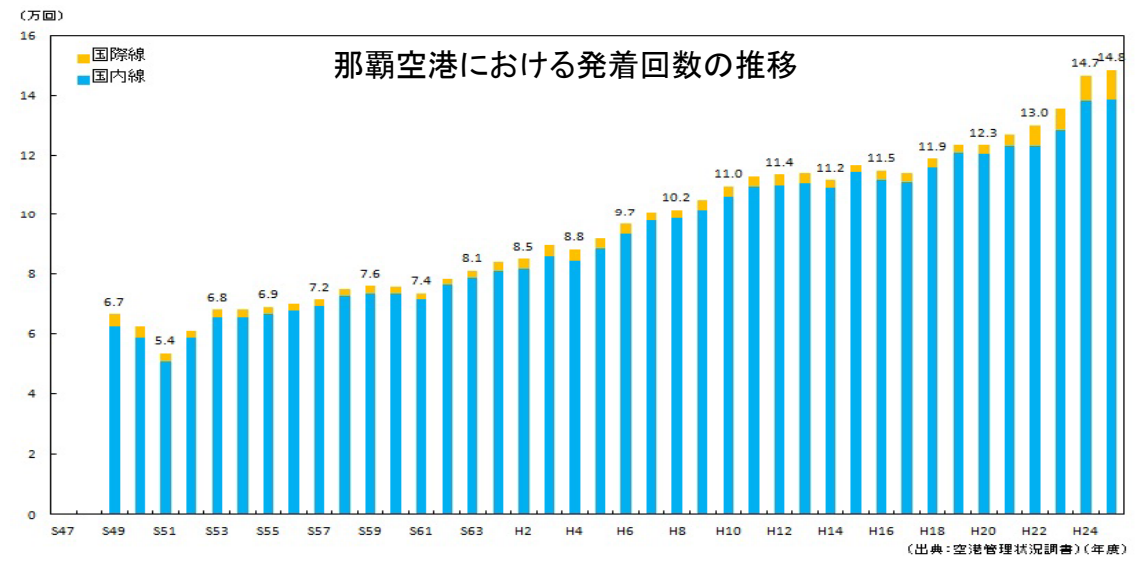
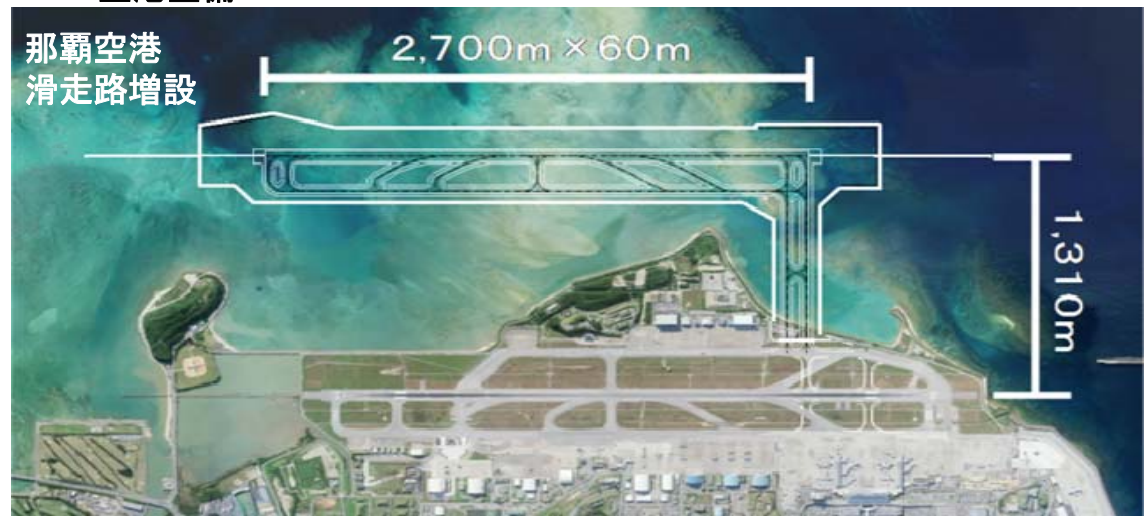


【沖縄へのクルーズ船の寄港回数と乗客数の推移】



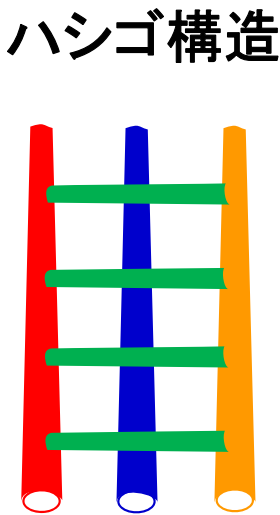
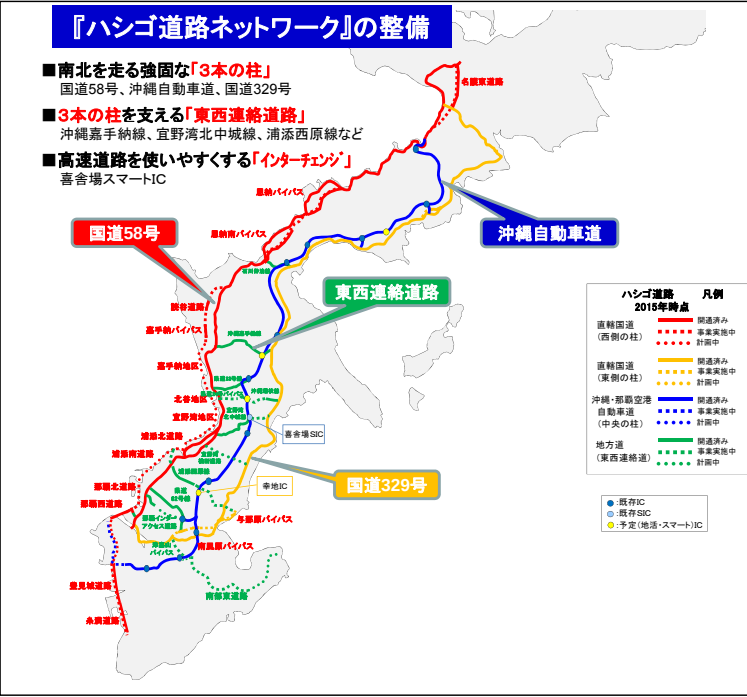
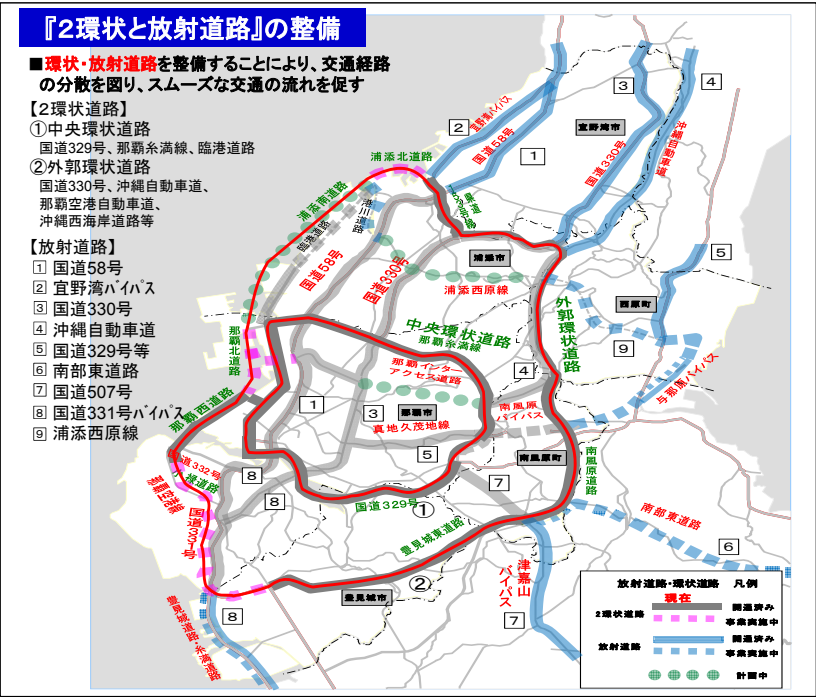
空港整備

那覇空港
滑走路増設



③交通網の整備

- 那覇都市圏に2環状と放射道路を整備し、日本での渋滞ワースト1位から脱却。
- 本島の南部、北部を3本柱のハシゴ構造の道路で結び、円滑な交通移動を実現。



那覇都市圏
における外郭
環状道路の
機能強化



④情報発信の拡充

- 「道の駅」は、「休憩機能」、「情報発信機能」、「地域の連携機能」の3つの機能を併せ持つ施設。
まちの特産物や観光資源を活かし、「ひとを呼び、地域にしごとを生み出す」核へと進化。
- 観光客を含め一般の方に、観光に貢献するインフラ整備について、理解してもらうため、インフラ施設を対象とした「沖縄観光インフラカード」を作成し、手渡しで配付。ソフトインフラにより観光振興に貢献。

道の駅

- ・進化する道の駅
域外から活力を呼ぶゲートウェイ型
地域の元気を創る地域センター型

【ゲートウェイ型】

【地域センター型】



地域の観光窓口



近隣の漁港でとれた新鮮な魚を販売



地域工芸(染め織物)の体験



災害時の避難階段

沖縄観光インフラカード

- ・現在、16施設で発行、今後も対象施設を追加していく予定。

【沖縄北部ダムツーリズム】

【開通記念】

福地ダム

安波ダム

漢那ダム

豊見城東道路



【道の駅】

許田

おおぎみ

ゆいゆい国頭

かでな



喜名番所

豊崎

いとまん

ぎのざ



【国営沖縄記念公園】

沖縄美ら海水族館

首里城

海洋文化館

熱帯ドリームセンター



⑤環境保全・再生

○沖縄は日本唯一の亜熱帯性気候で、海域はサンゴ礁などの特異な環境であり、こうした環境と共生する港湾整備を目指した取り組みを進めている。

○北部の水源地‘やんばる’は、絶滅危惧種に指定されるノグチゲラ等の沖縄固有の貴重種が生息するなど、豊かな自然環境が残された貴重な環境。このため、整備にあたり、これら自然環境への配慮を行うとともに、環境の復元・創出等に努めている。

消波ブロックの加工(那覇港)



サンゴの移植(石垣港)



人工営巣木(大保ダム)



森林がノグチゲラによる営巣可能な状態に回復するまでの「緊急避難的な措置」として「人工営巣木」を設置。



設置8年後

防波堤の消波ブロックに凸凹加工を施し、サンゴの加入・着生を促進。

航路浚渫に伴うサンゴ移設と環境省が取り組むサンゴ群集の修復を連携して実施。

ビオトープ(漢那ダム)



第二貯水池を活用し、ビオトープを整備。水鳥やトンボなどの水生昆虫類の貴重な生息生域となっている。

⑥防災・危機管理

- 大規模自然災害が発生した場合において、国土交通省の技術職員TEC－FORCEを被災地に派遣。
- 大規模な地震・津波災害の発生に備えて、関係機関による沖縄防災連絡会を設立。島内の限られた資源のみの初動対応を想定し、連携・協力した迅速・的確な対策を確立。
- 被災直後から先行的に国の職員を派遣し、自治体の支援を実施。沖縄総合事務局では全41市町村とリエゾン協定を締結。

国土交通省緊急災害対策派遣隊(TEC－FORCE)

大規模自然災害が発生した場合において、国土交通省の技術職員TEC－FORCEを被災地に派遣。
被災地地方公共団体等が行う災害応急対策に対する技術的な支援を円滑かつ迅速に実施。

事例：広島市で発生した土砂災害に対する支援を実施するため、8月20日に中国地方整備局のほか全国の地方整備局（北陸・中部・四国・九州）らTEC－FORCE(緊急災害対策派遣隊)14班57名を派遣。



家屋の土砂災害の被害様子



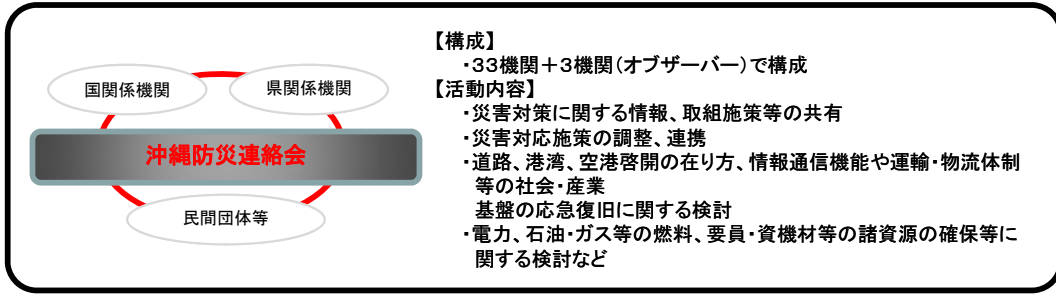
自衛隊・消防・警察と捜索活動の打ち合わせ 8月24日



安佐南区八木町の被害状況調査8月21日

沖縄防災連絡会(平成24年11月12日設立)

沖縄地域における大規模な地震(M9.0)・津波災害の発生に備えて、予め関係機関が対応策を検討。
発災直後は、島内の限られた資源のみの災害対応を想定し、連携・協力した迅速・的確な初動対応の実施。
初動体制の「中間とりまとめ」を平成26年7月に行い、平成27年度中には報告書を取りまとめる予定。



災害時の情報交換及び応援(リエゾン)

被災直後から先行的に国の職員を派遣し、被災状況や被災自治体の支援ニーズを把握し、被災地方整備局等の災害対策本部に伝達するほか、自治体の支援を実施。沖縄総合事務局では全41市町村とリエゾン協定を締結。



①自治体ヘリエゾンを派遣



②災害対策用資機材の派遣



③共同での防災訓練を実施

「沖縄観光客1000万人時代のインフラ整備」について有識者100人に聞く

○各界の有識者から聞く「観光客1000万人時代のインフラ整備を100人に聞く」を企画しており、様々な意見を
受けて、新たな提案に結びつけていく予定。
○現在、46人にインタビューを実施し、これまで24名を沖縄建設新聞に連載中。



観光客1000万人時代に備えて私の提案①
世界に通用するインフラ必要
ウチナービケーンの整備を

（財）沖縄観光コンベンションビューロー
会長 上原 良幸氏



観光客1000万人時代に備えて私の提案②
バースの大型化必要
クルーズ船は経済効果高い

第1工科大学
代表取締役社長 宮島 雅一氏



観光客1000万人時代に備えて私の提案③
「リゾート力」必要
滞在日数延ばす仕掛けを

沖縄県観光局
局長 上地 英由氏



観光客1000万人時代に備えて私の提案④
海・空路の整備を
同遊できる諸島リゾートへ

琉球大学
教授 池端 通氏



観光客1000万人時代に備えて私の提案⑤
ITで発信と交流
公共交通は戦略的な整備を

琉球大学
教授 木村 博氏



観光客1000万人時代に備えて私の提案⑥
インフラ整備が観光振興に直結
観光客・観光客のインフラ

沖縄総合事務局
次長 尾澤 卓思氏



観光客1000万人時代に備えて私の提案⑦
自然守り美しいまちを
英語表記や英会話に挑戦して

琉球大学
教授 ジェス・イン・ウェン・ワースル氏



観光客1000万人時代に備えて私の提案⑧
沖縄らしさを追求
県全体でコーディネート

琉球大学
教授 瀧辺 美紀氏



観光客1000万人時代に備えて私の提案⑨
基地跡地活用が鍵
滞在型や医療の視点必要

琉球大学
教授 高良 吉吉氏



観光客1000万人時代に備えて私の提案⑩
国際競争力視野に
めりはりある面的開発を

琉球大学
教授 小堀 淳氏



観光客1000万人時代に備えて私の提案⑪
インフラのPRを
工事内容や完成図示して

琉球大学
教授 西村 聡氏



観光客1000万人時代に備えて私の提案⑫
開発は最小限で
自然は重要な観光インフラ

琉球大学
教授 西村 聡氏



観光客1000万人時代に備えて私の提案⑬
観光案内の拠点を
店舗や見所の最新情報発信

琉球大学
教授 花城 良廣氏



観光客1000万人時代に備えて私の提案⑭
景観に花や緑を
沖縄らしさを雲間気出す

琉球大学
教授 花城 良廣氏



観光客1000万人時代に備えて私の提案⑮
言語も観光インフラ
「英語タウン」で県内留学を

琉球大学
教授 呉屋 守康氏



観光客1000万人時代に備えて私の提案⑯
健康の視点が重要
トラムの導入で歩く社会へ

琉球大学
教授 出村 郁雄氏



観光客1000万人時代に備えて私の提案⑰
空間の魅力が鍵
ソフトを含めた全体で整備を

琉球大学
教授 丸川 徹氏



観光客1000万人時代に備えて私の提案⑱
世界水準ビジョンを
ソフトも人材育成も必要

琉球大学
教授 丸川 徹氏



観光客1000万人時代に備えて私の提案⑲
ダムや橋も観光資源に
スピード感もって整備を

琉球大学
教授 松野 知之氏



観光客1000万人時代に備えて私の提案⑳
路面電車でゆったり旅
住みよい空間を観光インフラ

琉球大学
教授 平良 朝敬氏



観光客1000万人時代に備えて私の提案㉑
健康の視点が重要
トラムの導入で歩く社会へ

琉球大学
教授 丸川 徹氏



観光客1000万人時代に備えて私の提案㉒
健康の視点が重要
トラムの導入で歩く社会へ

琉球大学
教授 丸川 徹氏

離島架橋は観光資源

- 離島架橋の整備効果は、モビリティ(移動しやすさ)の向上、生活環境・文化水準の向上、交流・物流の拡大支援、地域の活性化、観光資源の活用の5つで評価。
- そのうち、観光資源の活用という効果は、①島内の観光名所の活用と観光客数の増大、②観光開発で評価。
- ③として、「新たな観光資源の形成と観光客の増大」の追加を提案。
- 伊良部大橋事業要請時には、観光資源として位置付けていた。

【効果1】モビリティ(移動しやすさ)の向上

- ①円滑で随意性のある交通の確保

【効果2】生活環境・文化水準の向上

- ①医療サービスの向上
- ②教育・文化水準の向上

【効果3】交流・物流の拡大支援

- ①圏域の一体化
- ②効率的な移動や輸送の実現

【効果4】地域の活性化

- ①安定的なライフラインの確保
- ②雇用機会の創出、人口の定住化の促進

【効果5】観光資源の活用

- ①島内の観光名所の活用と観光客数の増大
- ②観光開発
- ③**新たな観光資源の形成と観光客数の増大**



伊良部大橋



伊良部大橋事業要請時イメージ
(出典: 伊良部架橋促進協議会)

インフラ施設の目的に「観光」を

- 多目的ダムでは、洪水調節、利水(上水道用水、工業用水、かんがい用水)、流水の正常な機能の維持、発電、レクリエーションなどの目的があり、目的記号でF、W、I、A、N、P、Rなどで示される。
- 沖縄北部ダムツーリズムでは、自然観察船やカヌーなどの湖面利用、ピクトープでの自然観察、ダム堤体内のツアーなどを実施。
- これらは、観光であり、ダムの目的に「観光」を位置付け、目的記号T(ツーリズム)を提案。



ダム名	主要テーマ	沖縄北部ダムツーリズム		地域圏の主なメニュー
		ダム管理施設メニュー	NPO等が実施するメニュー	
漢那	ダム施設見学 環境学習	①ダム堤体の見学(景観設計) ②ダム内部の見学 ③本ダム右岸の魚道見学 ④本ダム下流のマングローブ生態系 ⑤貯水池上流に隣接する第二貯水池(自然観察広場)		・道の駅ぎのぞ ・かんなパークゴルフ ・宜野座村立博物館 ・松田鍾乳洞 ・宜野座村の体験ダイビング
羽地	小学生の社会見学	⑥ダム資料館(沖縄の水資源他(小学生向け)) ⑦川遊び&川の生き物観察		・羽地民泊 ・名護城トレッキング
福地	野外活動と学習	⑧ダム資料館(沖縄の水資源(大人向け))	⑪ダム湖での自然観察船(ゴンミキ号)の運航(東村ふるさと振興株式会社が運航) ⑫ダム湖でのカヌー体験(東村ふるさと振興株式会社が実施)	・山と水の生活博物館 ・村民の森つつじエコパーク ・沖縄やんばる海水湯水発電所 ・慶佐次湾のヒルギ林マングローブツアー&遊歩道散策 ・半日・一日農業体験 ・東村シュノーケルツアー
大保		⑨ダム資料館(環境保全対策)	⑬ぶながや湖カヌー体験&大保川清流トレッキング ⑭森と水辺のノルディックウォーキング ⑮森と水辺のサイクリング(以上、おぎみまるとツーリズム協会が実施)	・ター滝トレッキング ・道の駅大宜味
金武		⑩ダム資料館(徳首ダム事業)		・ネイチャーみらい館 ・徳首川マングローブカヌー体験
安波			⑯亜熱帯ジャングルカヌーと川遊び(国頭ツーリズム協会が実施)	・やんばる学びの森(ツアープログラム、学びのゾーン、遊びのゾーン) ・比地大滝トレッキング

ダム管理施設を活用した取組み



ダム堤体見学



ダム資料館見学

ダム湖面や周辺の自然環境を活かした地域の活動



亜熱帯ジャングルカヌー



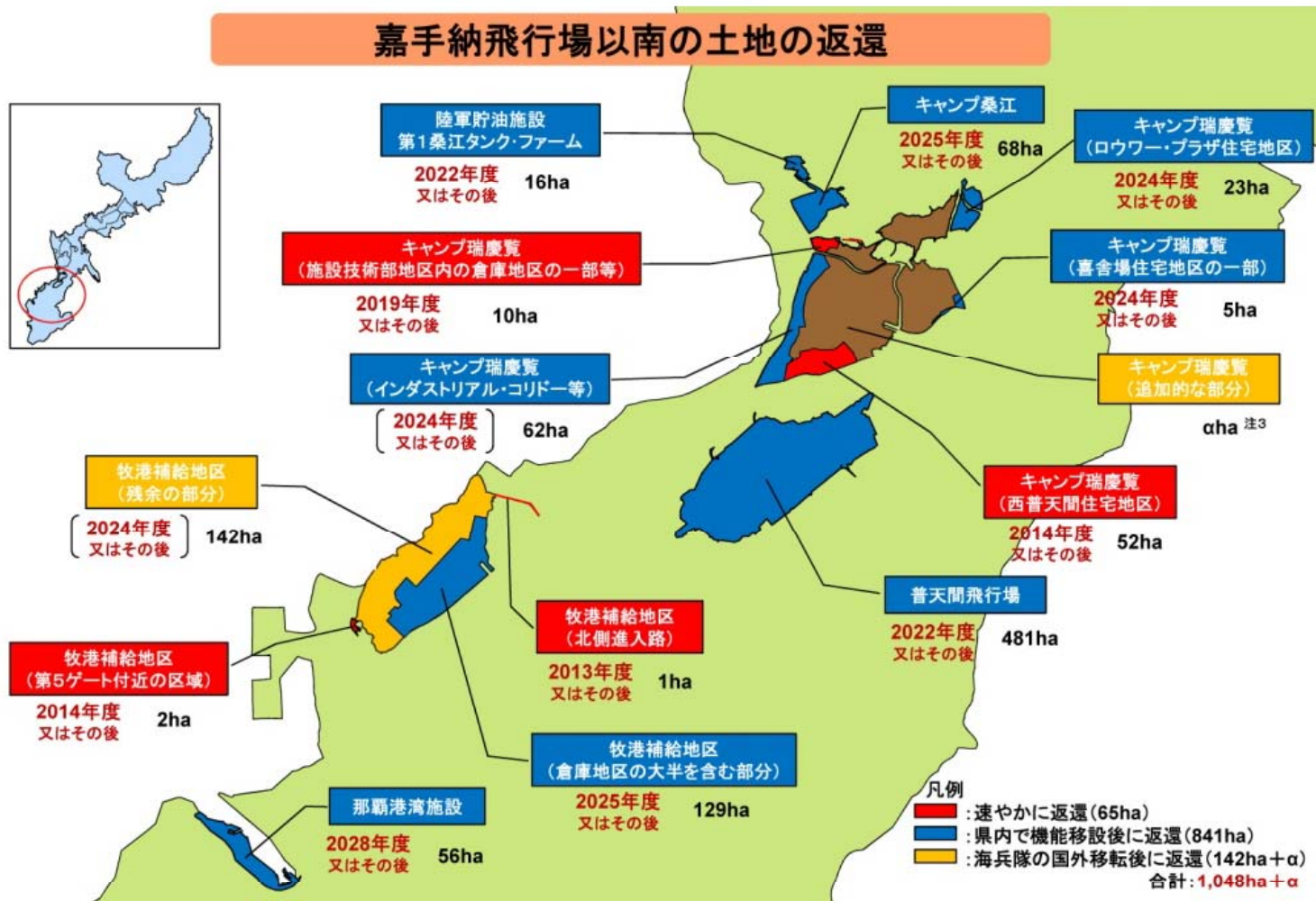
大保ダムノルディックウォーキング



ダム下流における川遊び

基地返還とまちづくり

- 嘉手納よりも南の6施設区域を2013年度～2028年度に順次返還。
- 速やかに返還 (65ha)、県内で機能移設後に返還 (841ha)、海兵隊国外移転後に返還 (142ha+ α) と条件整備とあわせて、段階的に返還。
- 返還跡地利用に際して、新たなまちづくりとして何を考えるか。



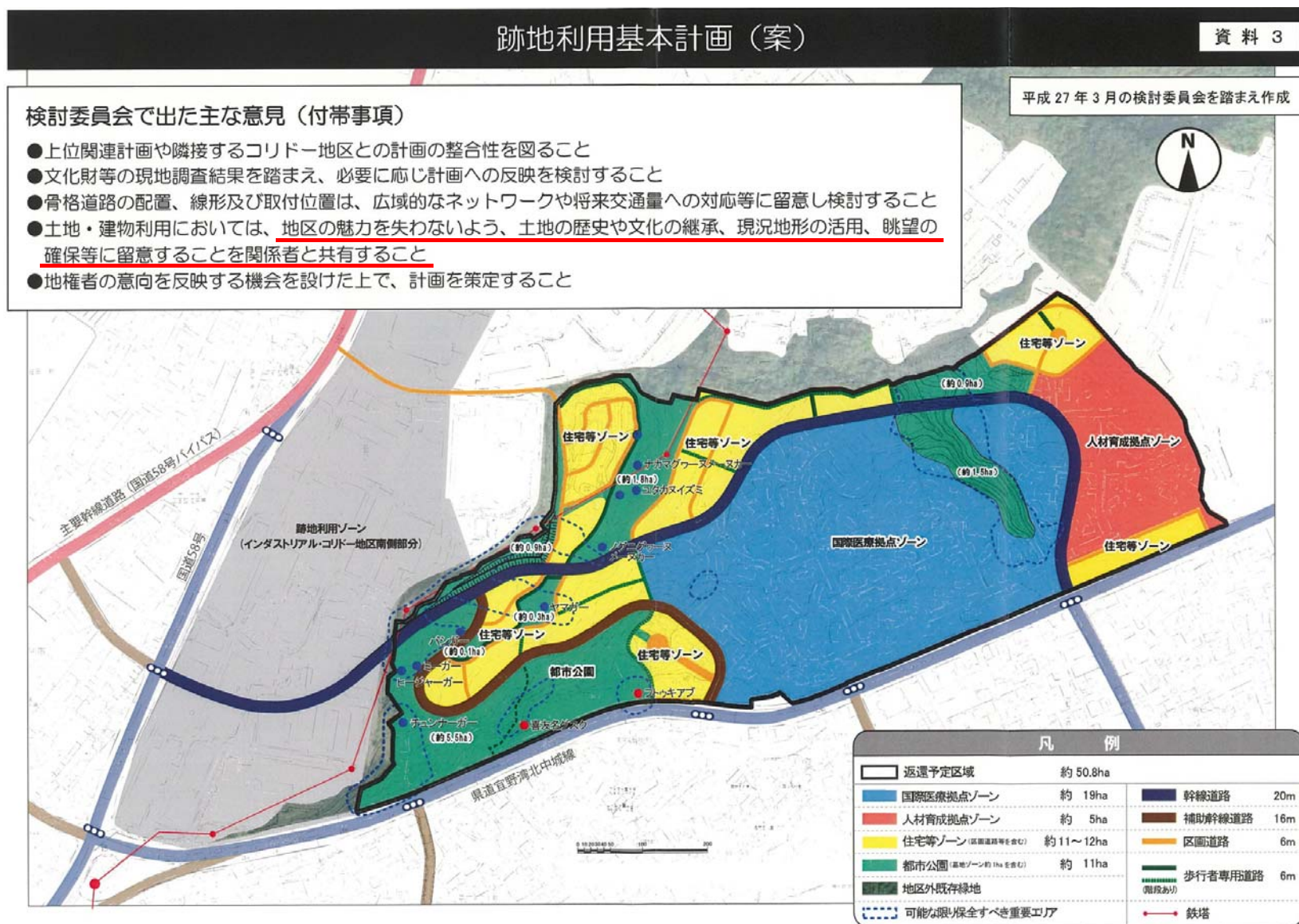
注1: 時期及び年は、日米両政府による必要な措置及び手続の完了後、特定の施設・区域が返還される時期に関する最善のケースの見込みである。これらの時期は、沖縄における移設を準備するための日本国政府の取組の進展、及び米海兵隊を日本国外の場所に移転するための米政府の取組の進展といった要素に応じて遅延する場合がある。さらに、括弧が付された時期及び年度は、当該区域の返還条件に海兵隊の国外移転が含まれるものの、国外移転計画が決定されていないことから、海兵隊の国外移転に要する期間を考慮していない。従って、これらの区域の返還時期は、海兵隊の国外移転の進捗状況に応じて変更されることがある。

注2: 各区域の面積は概数を示すものであり、今後行われる測量等の結果に基づき、微修正されることがある。

注3: 追加的な返還が可能かどうかを確認するため、マスタープランの作成過程において検討される。

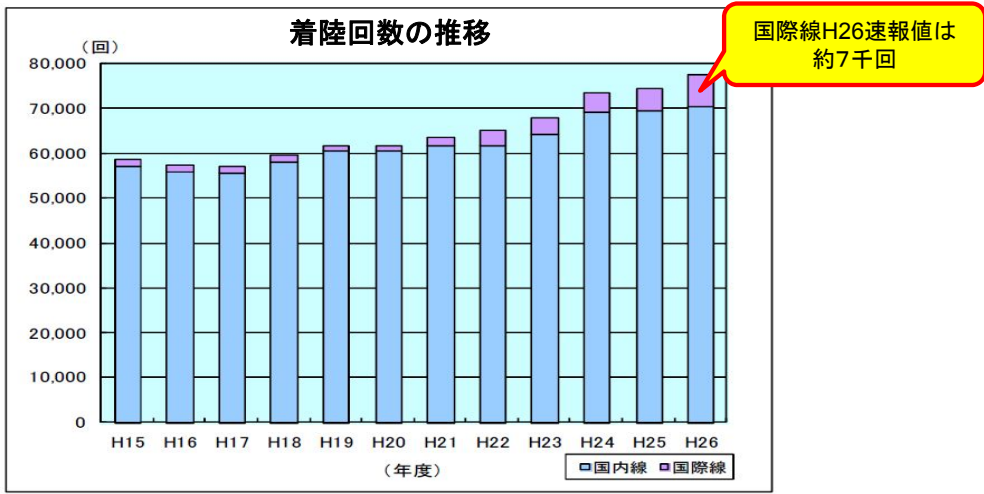
基地返還とまちづくり【西普天間地区の例】

- 約51haの大規模なまちづくり。国際医療拠点ゾーン、人材育成拠点ゾーン、住宅等ゾーンと都市公園を設定。
- 樋川(カー)がたくさんあり、水循環系を保全したまちづくりが重要。
- 返還跡地のような大規模なまちづくりでは、自然のシステム系の保全、雑用水の活用、再生エネルギーの活用など、循環型の環境にやさしいまちづくりが重要。

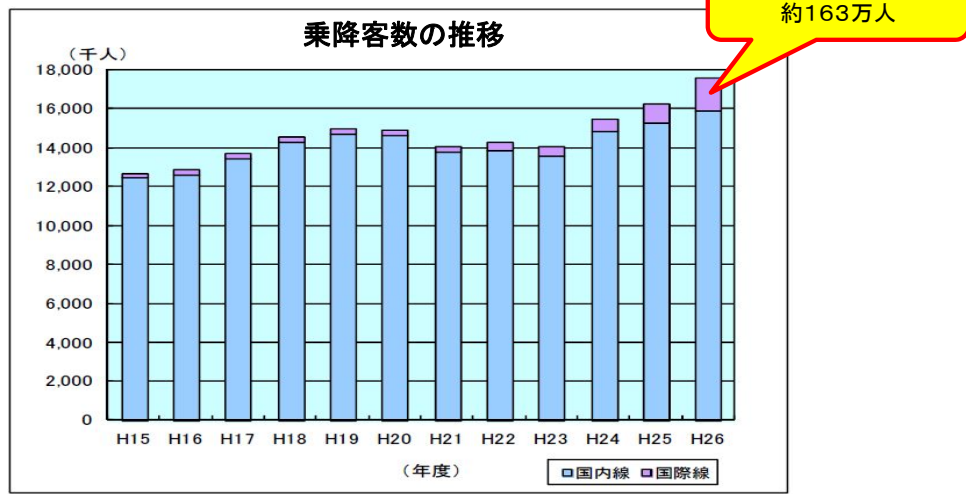
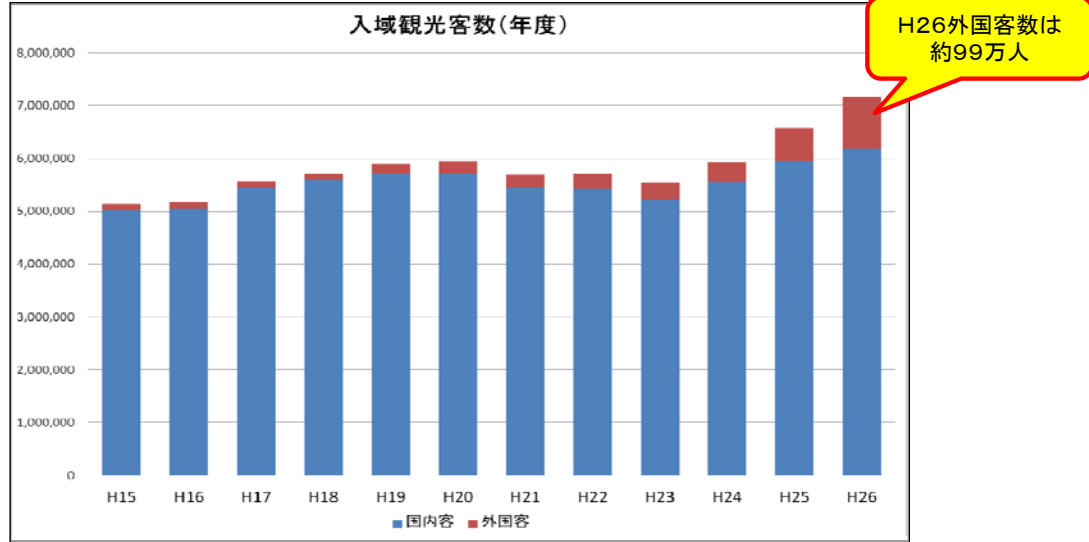


国際ターミナルの課題

- 外国人観光客数は年々増加しており、平成26年度は約99万人。
- 国際線の着陸回数は年々増加傾向にあり、平成26年度は約7千回の見込みで、乗降客数は約163万人。
- 平成26年2月に供用開始した国際線ターミナルの受け入れ想定は約100万人であり、すでに想定を超えている。
- 今後、平成33年度の外国人観光客の目標は200万人であり現在の2倍。



(空港管理状況調書より(H26は速報値))



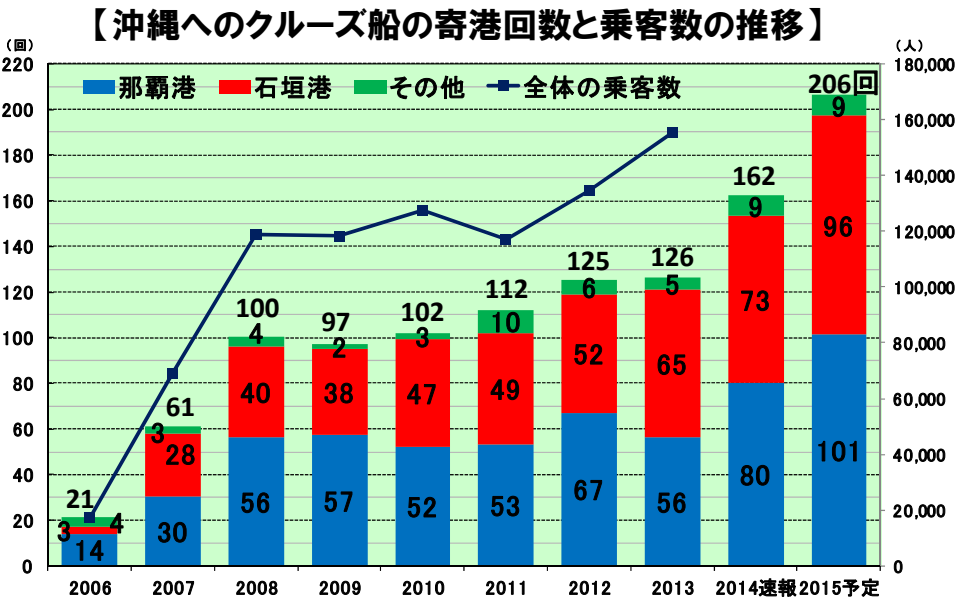
(空港管理状況調書より(H26は速報値))



玄関口の充実

○沖縄へのクルーズ船の寄港は年々増加しており、平成27年は206回を予定。那覇港、石垣港のみならず、平良港や本部港などにも寄港が予定されている。

○今後、観光の多様化に応じて、寄港回数の増加のみならず、多様なクルーズが考えられ、広くクルーズ船の寄港する港の整備が重要。



【沖縄へのクルーズ船の寄港実績】

	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	H25 2013	H26 2014	H27予定 2015
那覇港	14	30	56	57	52	53	67	56	80	101
石垣港	3	28	40	38	47	49	52	65	73	96
平良港	0	2	3	2	0	5	5	1	3	1
中城湾港	3	1	1	0	0	2	0	0	0	0
本部港	0	0	0	0	1	2	0	1	2	1
座間味港	1	0	0	0	2	0	1	1	2	1
徳仁港(南城市久高島)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
船浮港(西表島)	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2
祖納港(与那国島)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
南大東	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	21	61	100	97	102	112	125	126	162	206



道路ネットワーク(ハシゴ道路)

- 長期間を要する事業程、段階的な進捗と効果の発現を示すことが重要
- 3本柱において、交通配分にアンバランスが発生(沖縄自動車道への交通を配分)
- 交通の集中する西海岸、特に2環状7放射道路と重なる箇所を重点整備

< 幹線道路ネットワークの構築 >

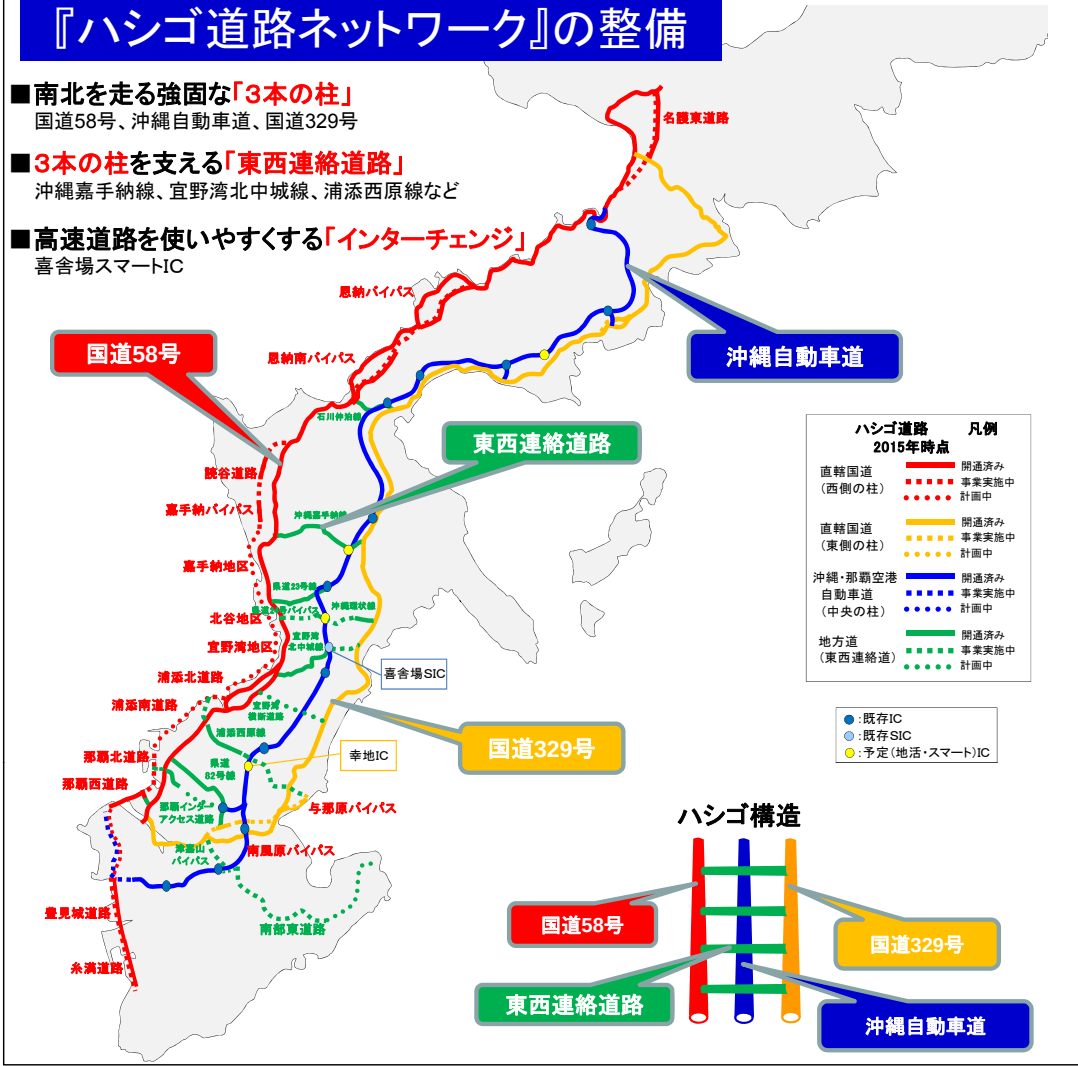
『ハシゴ道路ネットワーク』の整備

- 南北を走る強固な「3本の柱」
- 柱を支える「東西連絡道路」
- 高速道路を使いやすくする「インターチェンジ」



『ハシゴ道路ネットワーク』の整備

- 南北を走る強固な「3本の柱」
国道58号、沖縄自動車道、国道329号
- 3本の柱を支える「東西連絡道路」
沖縄嘉手納線、宜野湾北中城線、浦添西原線など
- 高速道路を使いやすくする「インターチェンジ」
喜舎場スマートIC



- 那覇市内の混雑時旅行速度が16.9km/hと全国渋滞ワースト1
- 通過する交通を迂回させる環状機能と集中する交通を分散させる放射機能の強化
- 外郭環状道路の整備（沖縄西海岸道路、那覇空港自動車道）、東海岸への放射道路の整備（南風原バイパス、与那原バイパス）

『2環状7放射道路』の整備

■環状・放射道路を整備することにより、交通経路の分散を図り、スムーズな交通の流れを促す

2環状7放射道路



『2環状と放射道路』の整備

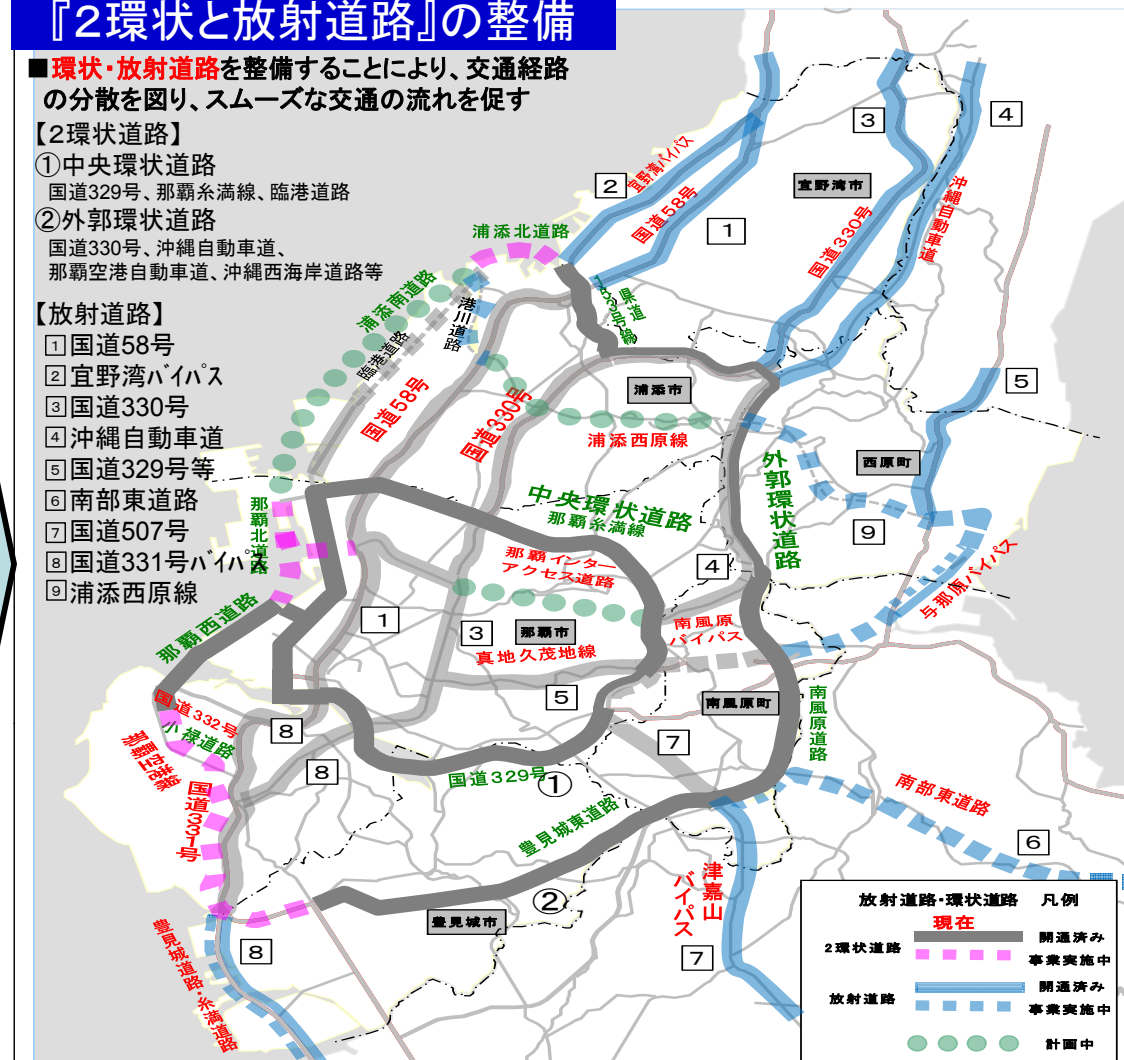
■環状・放射道路を整備することにより、交通経路の分散を図り、スムーズな交通の流れを促す

【2環狀道路】

- ①中央環状道路
国道329号、那覇糸満線、臨港道路
- ②外郭環状道路
国道330号、沖縄自動車道、
那覇空港自動車道、沖縄西海岸道路等

【放射道路】

- ① 国道58号
- ② 宜野湾バイパス
- ③ 国道330号
- ④ 沖縄自動車道
- ⑤ 国道329号等
- ⑥ 南部東道路
- ⑦ 国道507号
- ⑧ 国道331号バイパス
- ⑨ 浦添西原線

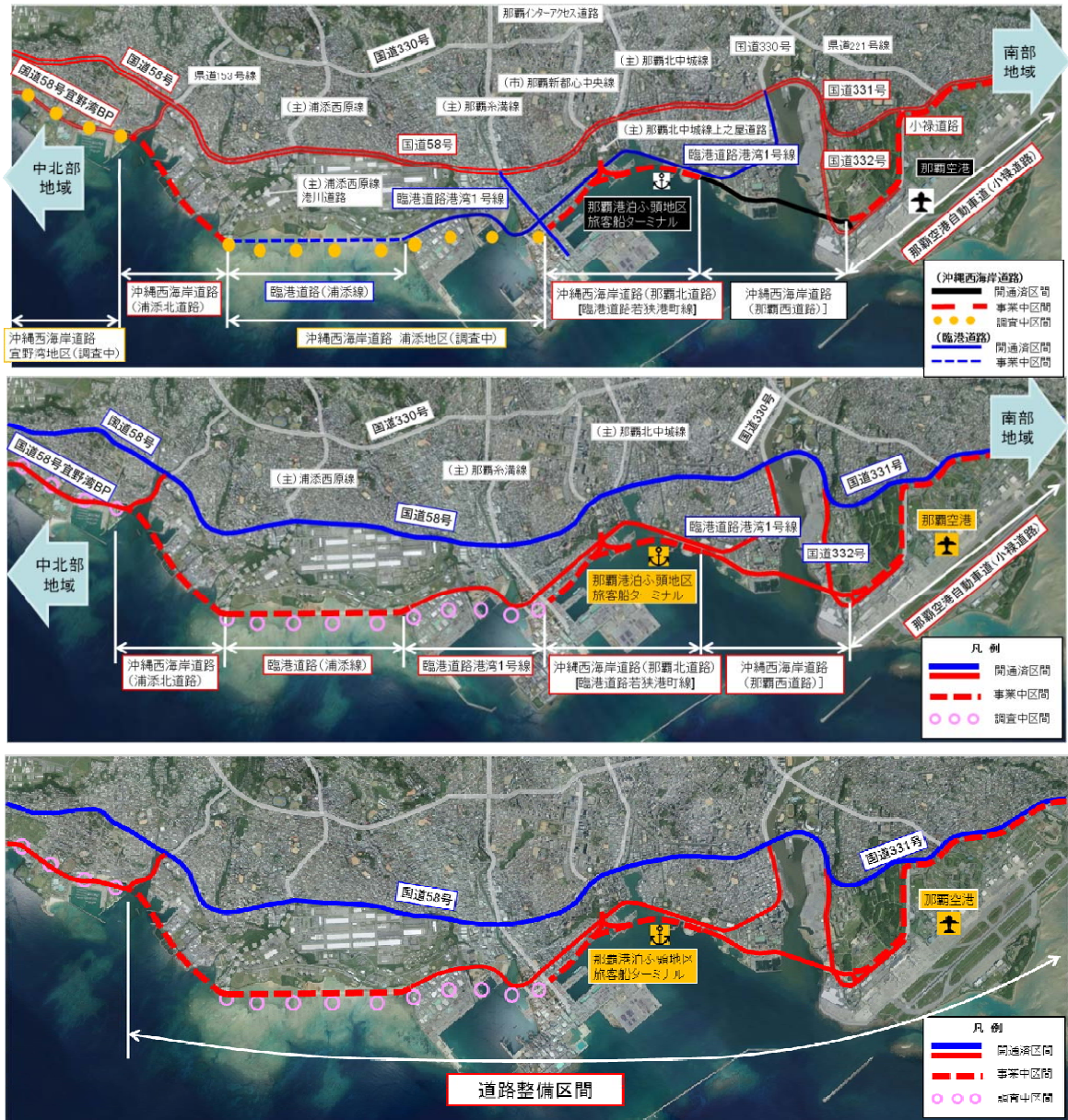


那覇都市圏における外郭環状道路の機能強化

- 沖縄西海岸道路及び臨港道路により、西海岸地域の外郭環状道路の機能を強化する。
- 那覇空港や那覇港を含む南北の移動の強化及び、那覇都市圏の渋滞の緩和により、全国渋滞ワースト1位※の脱却に貢献する。

(※平日混雑時の平均時速は全国主要都市の中でワースト1位。)

《事業位置図》



- 県道等各路線名を記載
- 凡例において、事業中区間、調査区間、開通区間を、道路事業と港湾事業で分類し表示

- 県道等の表示は主要路線のみ
- 凡例において、事業中、調査区間、開通区間のみで表示

- 路線名表示は説明したい路線のみとし、細かい事業区間は記載せず、まとめて「道路整備区間」と表示

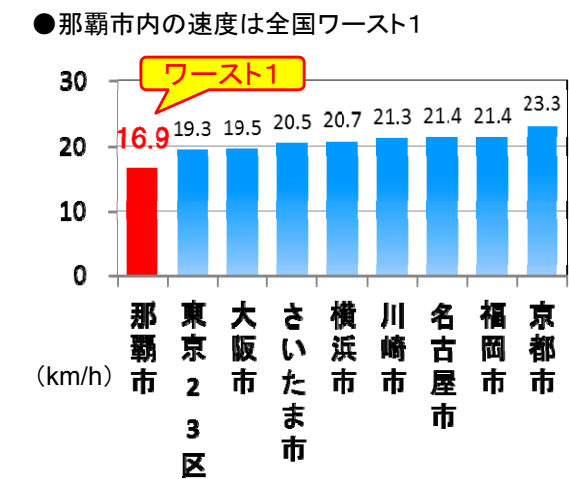
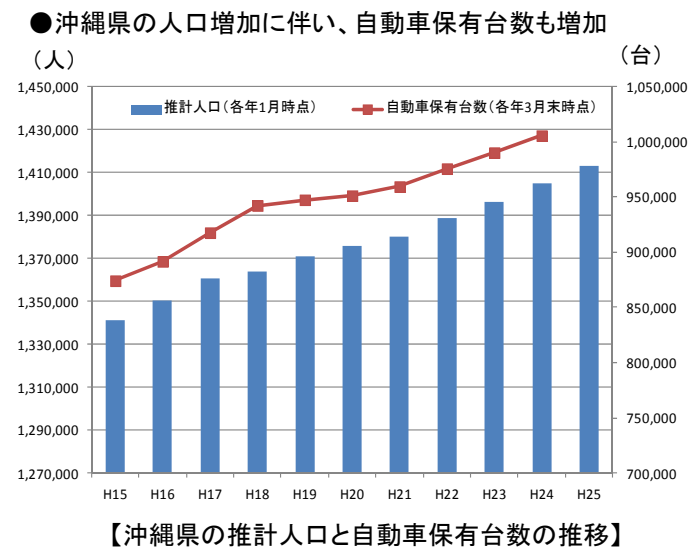
多言語標記

- 外国人へのレンタカー貸渡件数は、平成26年度は8万5千件で、前年度比の約2.3倍。国別では台湾(33%)、韓国(同)、香港(27%)で、9割以上を占めた。
- 県レンタカー協会では平成27年度より、英語版に加え、中国語版(繁体字)と韓国語版のドライブマップを新たに作製し、その中で運転上の注意点や県内の事故多発交差点などを紹介。
- 道路標識においても増える外国人に対応した多言語標記による整備が必要。



安心安全で円滑に移動可能な車社会を目指すため、3つのワースト1からの脱却

- 人口増加に伴い自動車保有数が増加、観光客も含め、県民の足が自動車に依存。
- 那覇市内の混雑時旅行速度は16.9km/hと全国渋滞ワースト1。
- 自動車保険の普及率は4台に1台と全国ワースト1。
- 飲酒運転事故率は、24年連続で全国ワースト1。
- 3つのワースト1からの脱却し、安心安全で円滑に移動可能な車社会を目指す。



【混雑時平均旅行速度の比較】
データ: 民間プローブデータH24.4～H25.3(平日)

自動車保険 都道府県別加入率 (2014年3月末)

都道府県名	保有車両数(台)	対人賠償保険(%)	対物賠償保険(%)	搭乗者傷害保険(%)	車両保険(%)
北海道	3,704,606	70.3	70.5	41.0	46.3
青森県	1,001,600	68.8	68.9	39.8	39.4
岩手県	1,015,932	62.4	62.3	30.0	34.4
宮城県	1,662,199	72.7	72.7	43.7	40.9
秋田県	821,406	59.2	59.3	31.4	35.3
山形県	931,299	64.3	64.4	32.4	40.2
福島県	1,624,195	66.0	66.0	36.7	37.5
茨城県	2,541,817	74.0	73.9	47.1	38.6
栃木県	1,692,984	71.7	71.7	42.3	36.8
群馬県	1,768,159	70.8	70.8	42.4	39.3
埼玉県	4,011,347	77.6	77.6	42.5	42.2
千葉県	3,553,695	78.5	78.5	46.4	46.8
東京都	4,415,951	77.7	78.0	43.9	44.1
神奈川県	3,984,710	79.3	79.4	46.3	45.1
新潟県	1,837,804	68.7	68.8	38.7	35.7
富山県	893,773	72.1	71.9	41.0	43.8
石川県	890,292	72.2	72.0	41.4	38.8
福井県	655,980	72.0	71.8	43.1	41.8
山梨県	744,747	62.0	61.9	37.4	27.9
長野県	1,882,026	64.2	64.2	33.8	35.2
岐阜県	1,670,573	77.0	76.9	40.2	55.7
静岡県	2,851,110	75.1	75.1	44.3	43.8
愛知県	5,096,460	80.9	80.9	42.3	57.0
三重県	1,495,593	76.0	76.0	39.3	47.4
滋賀県	1,007,836	73.9	73.8	38.1	43.1
京都府	1,335,037	78.9	78.9	43.6	45.1
大阪府	3,721,340	81.9	82.1	47.1	49.7
兵庫県	2,994,732	77.9	77.9	45.7	44.8
奈良県	829,134	79.3	79.2	45.2	45.2
和歌山県	749,320	74.1	73.9	42.2	34.7
鳥取県	461,268	65.4	65.3	35.1	44.5
島根県	549,612	56.3	56.3	27.1	33.7
岡山県	1,511,986	73.3	73.3	41.4	41.9
広島県	1,868,465	75.7	75.7	39.1	41.7
山口県	1,067,889	71.4	71.4	40.3	45.4
徳島県	616,866	71.8	71.7	37.8	39.1
香川県	774,075	74.9	74.8	42.1	40.9
愛媛県	1,008,568	70.2	70.1	37.7	36.8
高知県	558,880	58.0	57.8	32.7	28.8
福岡県	3,291,999	76.1	76.1	45.6	47.1
佐賀県	665,441	65.6	65.5	40.0	36.8
長崎県	937,222	66.1	66.0	36.1	36.5
熊本県	1,348,838	65.5	65.5	37.5	40.8
大分県	909,073	65.1	65.0	36.8	37.0
宮崎県	931,822	58.1	58.1	36.0	34.0
鹿児島県	1,336,197	59.5	59.3	35.5	31.5
沖縄県	1,048,713	52.9	52.9	39.3	25.8
全国計	80,272,571	73.4	73.4	41.7	43.0

※保有台数は、国土交通省発表の平成26年3月末現在の保有車両数である。
※対人賠償保険・対物賠償保険・搭乗者傷害保険・車両保険は、損害保険料率算出機構の「自動車保険契約都道府県別普及率表」(平成26年3月末現在)による。

飲酒運転根絶!!

24年連続全国ワースト1

沖縄県の飲酒運転事故率は、

「飲酒運転をしない、させない、許さない」

環境づくりの推進

平成21年10月1日「沖縄県飲酒運転根絶条例」が施行されましたが、未だに飲酒運転があとを絶ちません。飲酒運転のない安全な沖縄県を作りましょう。

平成25年 飲酒が絡む人身事故の割合

順位(ワースト)	都道府県	飲酒運転事故率
1位	沖縄県	2.01%
2位	A	1.47%
3位	B	1.40%
全国平均		0.73%

平成25年12月末計(上表)

ワースト2位と比べると約1.4倍
全国平均と比べると約2.8倍!!

直近5年飲酒が絡む人身事故の割合推移

年	沖縄県	全国平均
H21	1.88%	0.82%
H22	2.27%	0.80%
H23	1.88%	0.77%
H24	1.88%	0.73%
H25	2.01%	0.73%

平成25年12月末計(上表)

毎年、沖縄県は飲酒が絡む人身事故が全国平均の2倍以上も多い!

観光戦略とインフラ整備

(沖縄21世紀ビジョン基本計画)

- 世界水準の観光リゾート地の形成
- 世界に誇れる“沖縄観光ブランド”の確立
- 具体的な観光戦略とインフラ整備を組み合わせたシナリオが必要

沖縄観光ブランドの確立

- ・環境共生型観光
 - ・文化資源活用型観光
 - ・スポーツ・ツーリズム
 - ・医療ツーリズム
 - ・大規模なイベント
- 等

具体的な観光戦略の立案
国内のみならず成長著しいアジア諸国
をはじめとした海外からの観光客を対象
としたマーケティング
目指す具体的な姿は何か

受入のためのインフラ整備

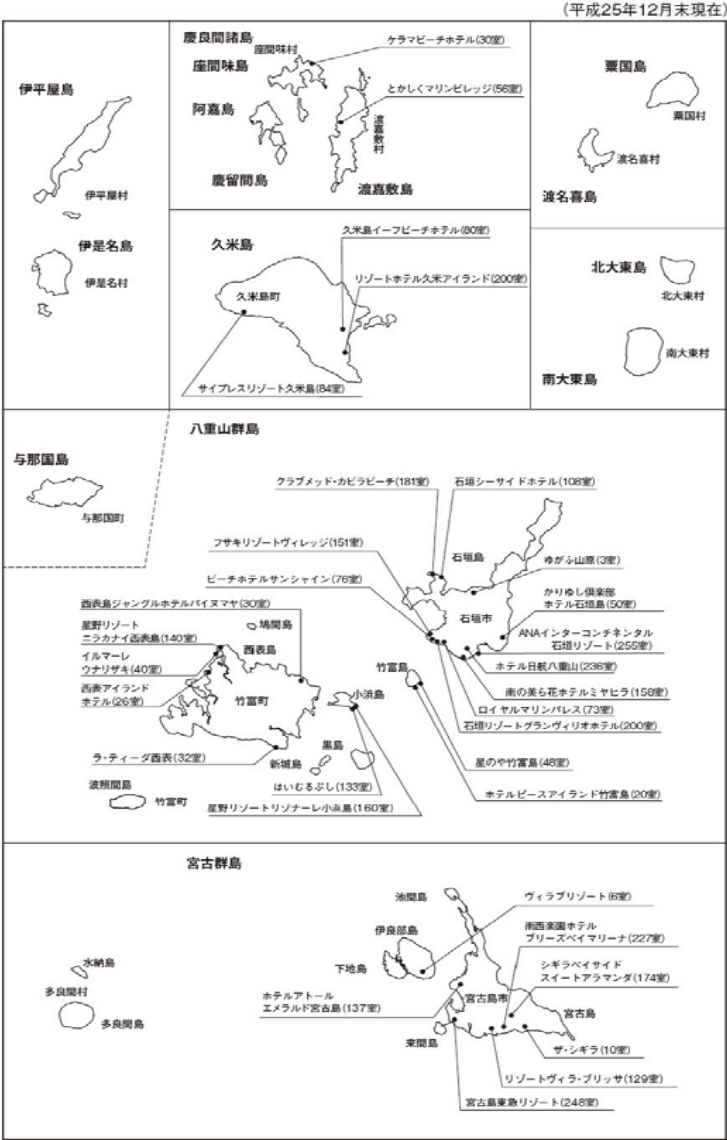
- ・玄関口の充実、拡大
 - ・陸上交通の基盤整備
 - ・観光まちづくりの推進
 - ・観光関連施設の集積
 - ・公共施設の一体的・重点的な整備
 - ・ユニバーサルデザインの推進
 - ・県民のホスピタリティ向上
- 等

新たなシナリオの検討
政策提言をしたシナリオの補充
とともに、新たなシナリオの検討
が必要
観光戦略とセットで検討

具体的な観光戦略

- 目指す具体的な姿とは
 - 日本のゲートウェイ、アジアへのゲートウェイ
 - ビジネス&リゾート？ シンガポール？ 滞在型リゾート？ ハワイ？
- どちらも可能

沖縄県内リゾートホテル立地図



沖縄全体の位置付けと地域に
応じた位置付けで戦略は異なる

↓
経済戦略及びインフラ整備とセットで
具体的戦略を立案

ビジネス
&リゾート

スポーツ&リゾート

- マラソン、トライアスロン大会などスポーツイベント
- プロ野球、プロサッカーなどのプロスポーツのキャンプ地
- アマチュアスポーツの合宿
- 競技施設の整備とリゾート施設の利用

亜熱帯性気候、美しい自然等
沖縄の魅力のもと
スポーツ&リゾート

沖縄県内におけるマラソン・トライアスロン

主なマラソン大会	コース
石垣島マラソン	国道390号、県道富野大川線、 県道79号線、県道211号線等
おきなわマラソン	国道329号、国道330号、県道8号線、 県道10号線、県道85号線等
NAGOURAマラソン	国道58号、県道247号線(古宇利大橋)、 県道110号線(屋我地大橋)
エコアイランド宮古島マラソン	国道390号、 県道平良下地島空港線(伊良部大橋)、 市道来間大橋線(来間大橋)
伊平屋ムーンライトマラソン	県道179号線(野甫大橋)等
久米島マラソン	県道89号線、県道242号線等
NAHAマラソン	国道58号、国道329号、国道331号、 県道39号線、県道221号線等

主なトライアスロン大会	コース
久米島トライアスロン	県道89号線、県道242号線等
全日本トライアスロン宮古島	国道390号、県道230号線(池間大橋)、 県道平良下地島空港線(伊良部大橋)、 宮古市道(来間大橋)等
豊崎トライアスロンinとみぐく	豊見城市道等
石垣島トライアスロン	国道390号、県道富野大川線、 県道79号線、県道211号線等
いげなトライアスロン	県道177号線、県道178号線、 伊是名村道等
琉球アクアスロン	県道伊計平良川線(海中道路)等

2014プロ野球 春季沖縄キャンプ案内

※キャンプ日程は変更する可能性があります。詳細等は各球団地元協力会・友の会に直接お問い合わせください。

1軍 日本プロ野球

- no.1 北海道日本ハムファイターズ (1軍)
名護市宮球場
2月1日(土)～3月1日(土)
OFF:2月5日・10日・14日・19日・24日・29日
- no.2 阪神タイガース (1軍)
宜野湾村野球場
2月1日(土)～2月28日(木)
OFF:2月6日・12日・17日・21日
- no.3 広島東洋カープ (1軍)
コザしんきんスタジアム(沖縄県野球場)
2月21日(金)～3月9日(月)
OFF:2月27日
- no.4 中日ドラゴンズ (1軍)
北谷公園野球場
2月1日(土)～2月28日(木)
OFF:2月4日・10日・17日・24日
- no.5 横浜DeNAベイスターズ (1軍)
宜野湾市立野球場
2月1日(土)～2月28日(木)
OFF:2月6日・12日・16日・24日
- no.6 東京ヤクルトスワローズ (1軍)
浦添市民球場
2月1日(土)～2月28日(木)
OFF:2月5日・10日・14日・20日
- no.7 読売ジャイアンツ (1軍)
沖縄セルラースタジアム那覇
2月1日(土)～2月28日(木)
OFF:2月6日・10日・14日
- no.8 東北楽天ゴールデンイーグルス (1軍)
久米島野球場
2月1日(土)～2月13日(木)
OFF:2月7日
- no.9 オリックス・バファローズ (1軍)
宮古島市民球場
2月1日(土)～2月21日(金)
OFF:2月6日・11日
- no.10 千葉ロッテマリーンズ (1軍)
石垣市中央運動公園野球場
2月1日(土)～2月18日(金)
OFF:2月5日・10日・15日

2軍 日本プロ野球

- no.11 北海道日本ハムファイターズ (2軍)
くにがみ球場
2月1日(土)～2月21日(金)
OFF:2月5日・10日・17日
- no.12 中日ドラゴンズ (2軍)
読谷平和の森球場
2月1日(土)～2月27日(木)
OFF:2月6日・12日・17日・24日
- no.13 横浜DeNAベイスターズ (2軍)
喜手納野球場
2月8日(土)～2月26日(金)
OFF:2月14日・21日
- no.14 東北楽天ゴールデンイーグルス (2軍)
仲里野球場
2月1日(土)～2月14日(金)
OFF:2月15日
- no.15 久米島野球場
2月1日(土)～3月9日(月)
OFF:2月15日
- no.16 オリックス・バファローズ (2軍)
宮古島市下地野球場
2月22日(土)～2月26日(木)
OFF:2月25日
- no.17 宮古島市民球場
2月22日(土)～2月26日(木)
OFF:2月25日
- no.18 千葉ロッテマリーンズ (2軍)
石垣市中央運動公園野球場
2月1日(土)～2月14日(金)
OFF:2月5日・10日

韓国プロ野球

- no.19 SKワイバーンズ (韓国)
うるま市良志川野球場
2月12日(金)～3月3日(月)
OFF:2月15日・20日・25日・3月1日・3月3日
- no.20 LGツインズ (韓国)
うるま市石川野球場
2月10日(月)～3月4日(木)
OFF:2月13日・18日・23日
- no.21 SKワイバーンズ (韓国)
うるま市良志川野球場
2月12日(金)～3月3日(月)
OFF:2月15日・20日・25日・3月1日・3月3日
- no.22 ロッテマリーンズ (韓国)
金武町ベースボールスタジアム
2月15日(日)～2月22日(日)
OFF:2月18日・23日・28日
- no.23 読売ジャイアンツ (韓国)
金武町ベースボールスタジアム
2月15日(日)～2月22日(日)
OFF:2月18日・23日・28日
- no.24 読売ジャイアンツ (韓国)
金武町ベースボールスタジアム
2月15日(日)～2月22日(日)
OFF:2月18日・23日・28日

CHURASHIMA SOCCER CAMP

2014美ら島サッカーキャンプ

- 清州ユナイテッドFC (Kリーグ)
1月16日～2月5日
●本部町運動公園陸上競技場
- FC東京 (J1)
1月22日～1月29日
●国頭陸上競技場
- U-15日本代表 (JFA)
12月13日～12月17日
●金武町陸上競技場
- コンサドーレ札幌 (J2)
1月20日～1月31日
●金武町陸上競技場
- チャイニーズタイペイ代表
7月21日～7月25日
●金武町陸上競技場
- セレッソ大阪 (J1) 1次キャンプ
1月29日～2月1日
●沖縄県総合運動公園陸上競技場
- ガンバ大阪 (J1)
1月16日～1月27日
●中城村吉の浦公園こさる陸上競技場
- 横浜FC (J2)
2月4日～2月14日
●中城村吉の浦公園こさる陸上競技場
- UCLA Bruins(NCAA 女子 J1)
3月21日～3月26日
●中城村吉の浦公園こさる陸上競技場
- ジェフユナイテッド市原・千葉 (J2) 2次キャンプ
2月1日～2月9日
●南城市陸上競技場
- ブラウブリック秋田 (J3) 2次キャンプ
2月24日～2月28日
●南城市陸上競技場
- INAC神戸レオネッサ (なでしこ)
2月16日～2月22日
●南城市陸上競技場
- ヴィッセル神戸 (J1)
1月27日～1月31日
●八重瀬町東風平運動公園サッカー場
- セレッソ大阪 (J1) 2次キャンプ
2月1日～2月8日
●八重瀬町東風平運動公園サッカー場
- ブラウブリック秋田 (J3) 1次キャンプ
2月14日～2月23日
●八重瀬町東風平運動公園サッカー場

ビジネス&リゾートとしてMICEは何を目指すのか

○企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(インセンティブ旅行)(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のことであり、多くの集客効果が見込まれるビジネスイベントなどの総称

○沖縄として、リゾートの強みを活かし「国際会議都市」を目指すのか、「見本市都市」を目指すのか

Meeting

企業等のミーティング等。

例: 海外投資家向け金融セミナー
グループ企業の役員会議 等

Incentive (travel)

企業が従業員やその代理店等の表彰や研究などの目的で実施する旅行のこと。
企業報奨・研修旅行とも呼ばれる。

例: 営業成績の優秀者に対し、本社役員によるレセプション、表彰式等を行う。

Convention

国際団体、学会、協会が主催する総会、学術会議 等。

例: IMF・世銀総会、国際幹細胞研究会議、
APEC貿易担当大臣会合 等

Exhibition/Event

文化・スポーツイベント、展示会・見本市。

例: オリンピック、東京国際映画祭、
東京モーターショー、国際宝飾展 等

【MICEを活かして沖縄の何の強みを発揮するのか】

- ・沖縄科学技術大学院大学、琉球大学等の学術会議
- ・沖縄国際アジア音楽祭、沖縄国際映画祭
- ・世界エイサー大会、空手道会館
- ・万国津梁館
- ・国立劇場おきなわ 等

目指すのは
文化や学術を活かした「国際会議都市」

- ・沖縄大交易会
- ・ANA沖縄貨物ハブ
- ・国際RORO航路によるトランシップ輸送
- ・イオンモール沖縄ライカム、北谷アメリカンビレッジ、
沖縄アウトレットモールあしびなー
- ・見本市 等

目指すのは
国際物流に基づく商業を活かした「見本市都市」

沖縄大交易会

○日本全国の特産品等の海外販路拡大に資することを目的に「第1回沖縄大交易会」が平成26年11月27日(木)・28日(金)に開催。日本全国から200社(県外114社、県内86社)のサプライヤー、16ヵ国・地域と国内のバイヤー162社(海外90社、国内72社)が参加し、約1900件の商談を実施。

○沖縄のビジネス拠点、交易拠点としての魅力を体験することにより、国際的な商談拠点としての地位確立を目指す。



【国際食品商談会】

第1回 沖縄大交易会

GREAT OKINAWA TRADE FAIR 2014
INTERNATIONAL FOODS BUSINESS MEETING

2014年11月27日(木)・28日(金)
Thursday, November 27 - Friday, November 28
11/27(星期四) - 11/28(星期五)

沖縄コンベンションセンター・宜野湾市立体育館
Okinawa Convention Center, Ginowan City Gymnasium
沖縄会場中心・宜野湾市体育館

Guide Book 会場指南手冊

会場ガイドブック

《主催》沖縄県・沖縄県観光局
《協賛》日本全国の特産品等の海外販路拡大に資することを目的に「第1回沖縄大交易会」を開催。日本全国から200社(県外114社、県内86社)のサプライヤー、16ヵ国・地域と国内のバイヤー162社(海外90社、国内72社)が参加し、約1900件の商談を実施。

http://www.gotf.jp/



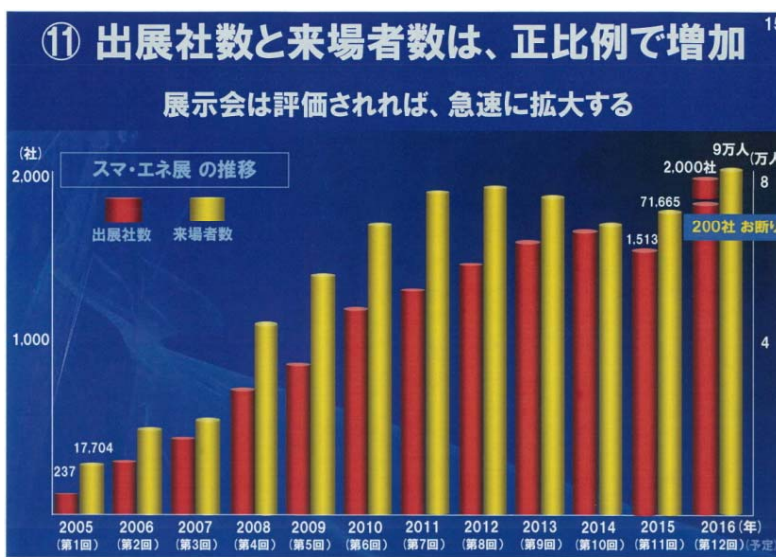
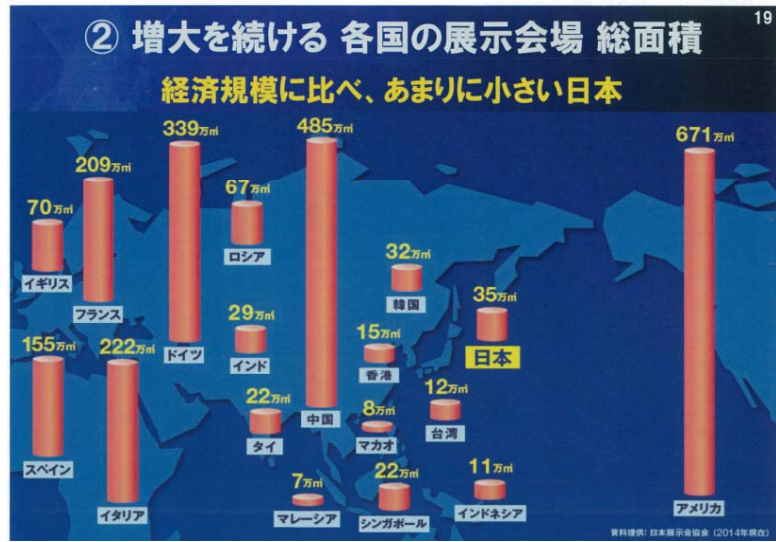
第1回沖縄大交易会



東アジアの中心に位置する沖縄

見本市会場

- 増大を続ける各国の展示会場、経済規模に比べあまりにも小さい日本。日本最大の東京ビックサイト(8万㎡)でも規模としては、世界72位。
- 展示会は、毎年、同時期に同会場で開催され、評価されれば出展社数と来場者数は、正比例増加。
- 沖縄は、アジアの中心に位置し、観光・リゾート地であることから見本市開催都市として優位。



展示会場の事情 (5万㎡以上)

○アジア

- ・中国 34箇所
- ・バンコク (14万㎡)
- ・シンガポール (10.9万㎡)
- ・ソウル (10.8万㎡)
- ・ニューデリー (6.3万㎡)

○日本

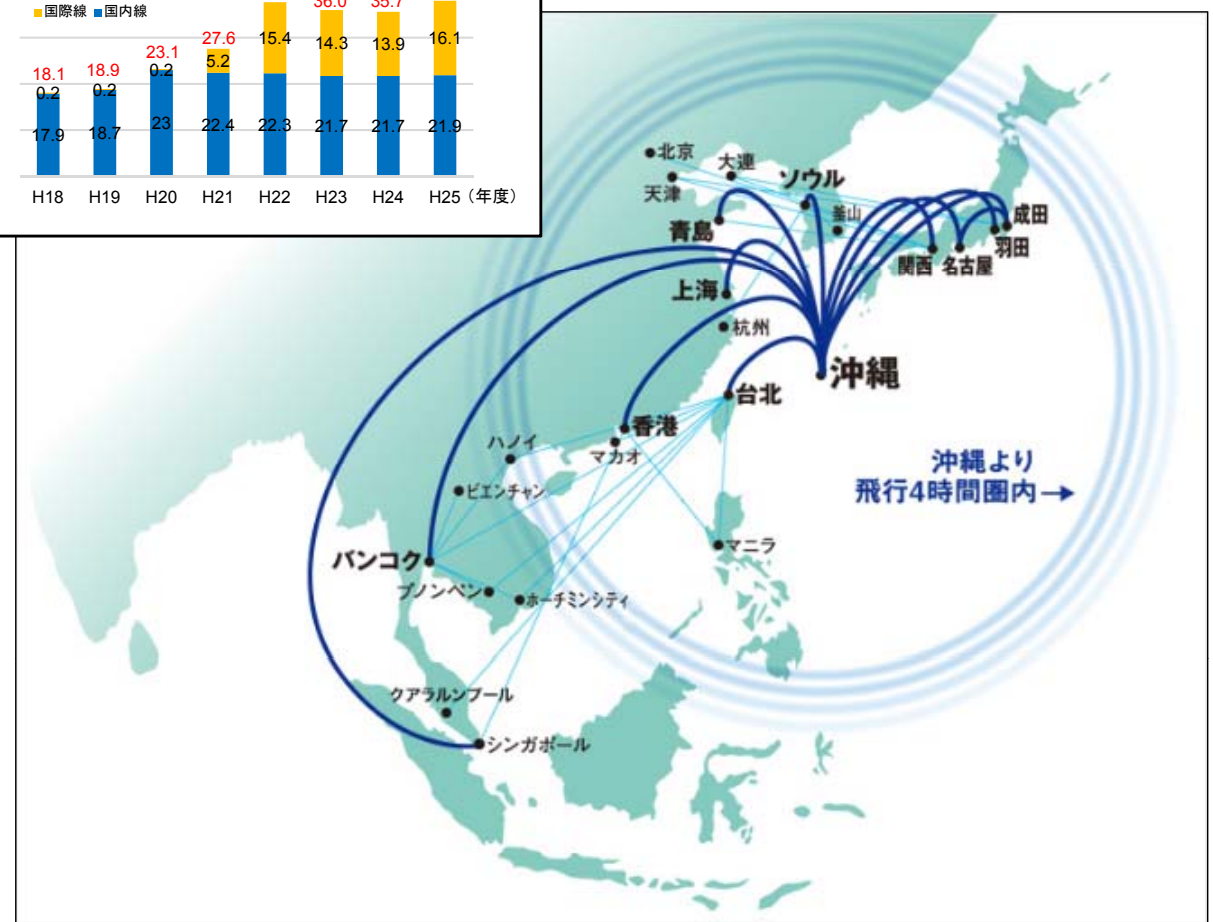
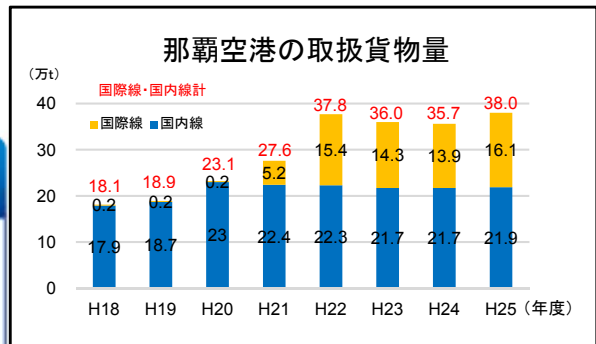
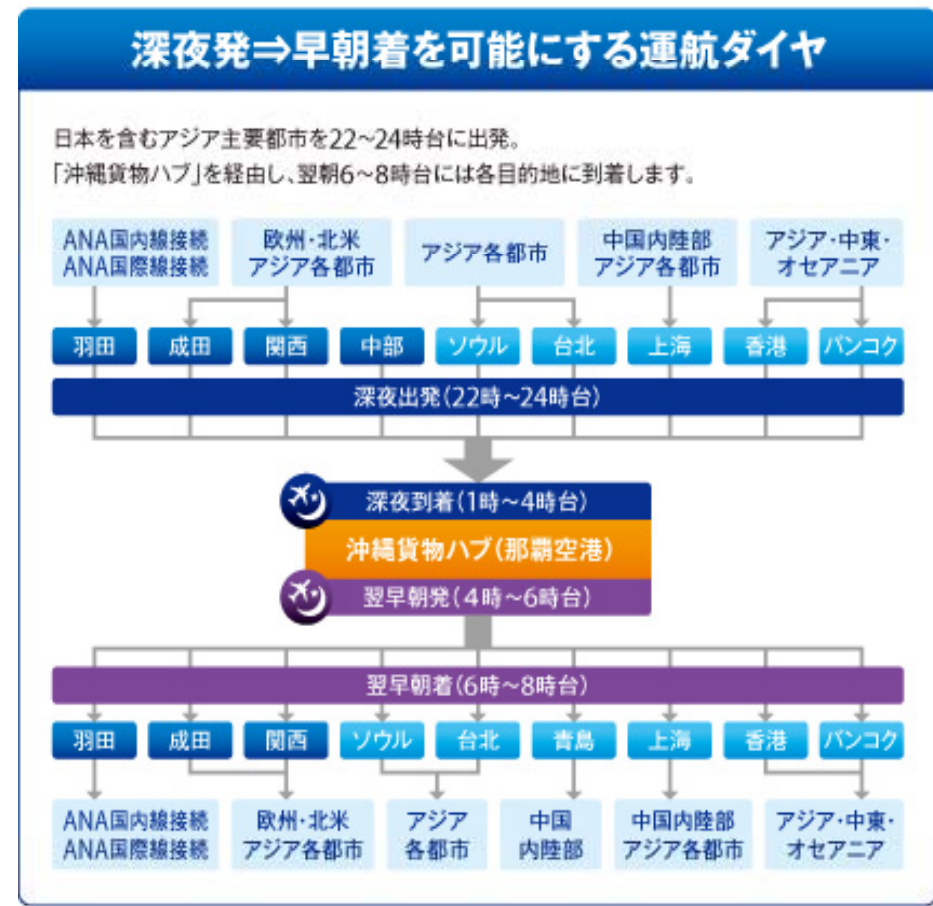
- ・東京ビックサイト (8.0万㎡)
- ・幕張メッセ (7.2万㎡)
- ・インデックス大阪 (7.0万㎡)

沖縄の地勢的優位性
中国を除いてアジアで少ない
現在日本も3箇所

沖縄貨物ハブ(ANA Cargo)

○ANAは沖縄のアジアにおける地理的な優位性を生かし、那覇空港と国内、海外を深夜貨物ネットワークで接続する「ANA沖縄貨物ハブ」を平成21年10月より運航開始。(平成26年4月より(株)ANACargo)
○平成26年1月より那覇→青島(中国)、3月より広州(中国)→那覇、5月より那覇→シンガポール線が新設され、沖縄での貨物便就航地点は国内4、海外8と合計12地点となる。

沖縄貨物ハブネットワークの優位性



今後も成長が期待されるアジア市場を網羅。さらに拡大していくANAの貨物便ネットワーク(ANAホームページより)

那覇港における国際航路の新設

- 琉球海運の台湾・高雄航路と商船三井の外航航路を接続し、那覇から世界各国へ輸出が可能となる国際航路を新設した。商船三井は高雄から東南アジアと北米向けに11の航路を持ち、欧州も含めた世界に90ある航路に接続可能となる。
- 新航路により、輸送日数が短縮され、輸送コストも低減できる。
- 海路でもアジアや世界と沖縄をつなげる道筋ができることで、県産品の販路拡大にも大きな弾みとなる。



RORO型「みやらび II」
国際総トン数 22,600G/T

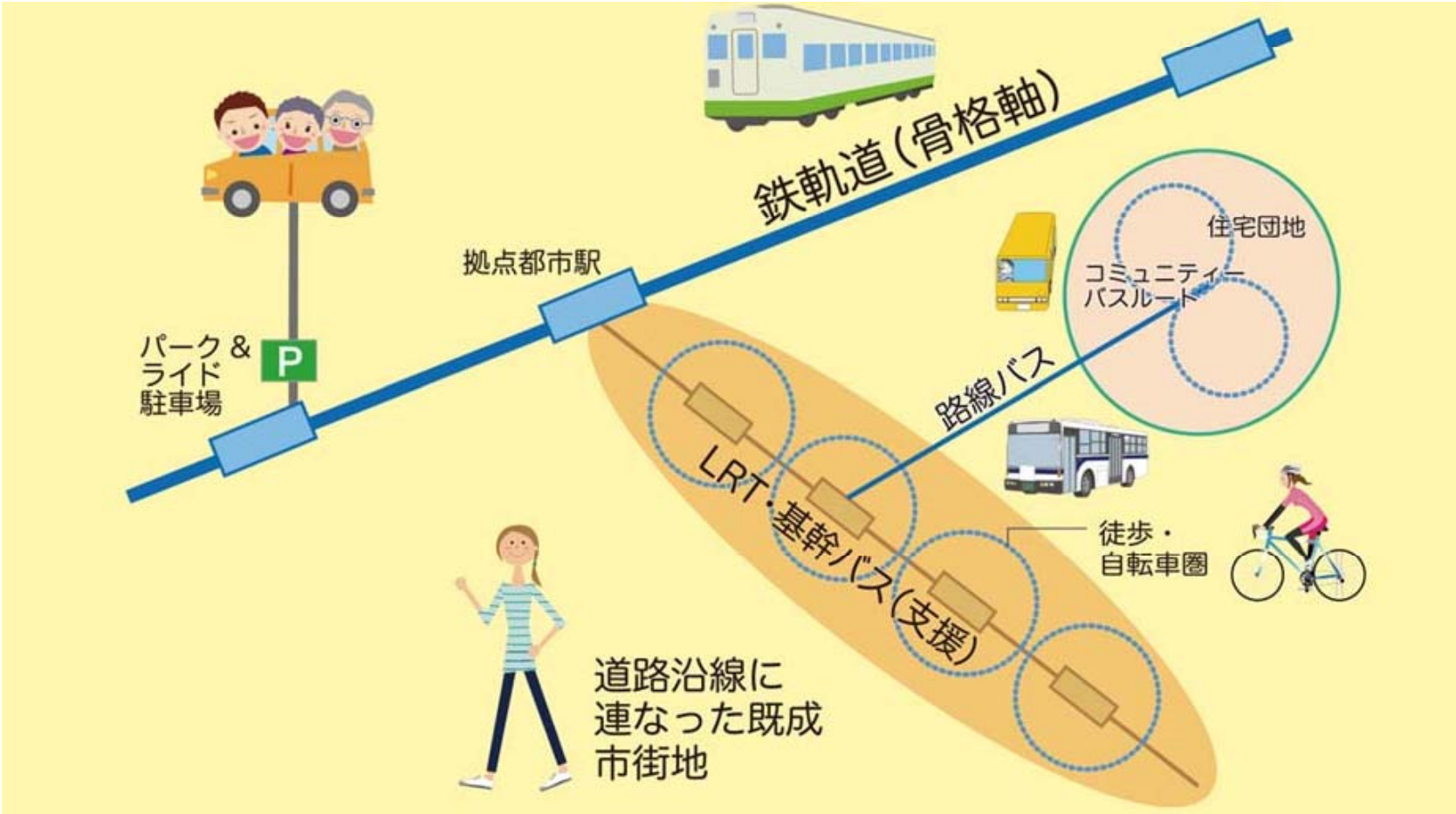
【所要時間の短縮】

- | | |
|--------------|----------------------|
| ・沖縄 → 香港 | 約2週間だったのが、最短で6日まで短縮 |
| ・沖縄 → シンガポール | 1ヶ月近くかかっていたのが、最短で11日 |

コストダウン

鉄軌道の検討

- 沖縄県は、他の都道府県に比べ、自動車利用に過度に依存しており、交通渋滞の慢性化が問題となっている。
- 沖縄県では沖縄本島の南北を縦断し、那覇⇄名護間を1時間以内に結ぶ鉄軌道の導入について検討している。



(沖縄県ホームページより)

- 沖縄県は、沖縄本島へ鉄軌道を導入する構想を軸に交通の将来像を描く。
- 幹となる鉄軌道から細分化した地域交通網「フィーダー(支線)交通」として定時・定速制の高いバス、沖縄都市モノレール、次世代路面電車(LRT)などを利活用する計画。

鉄軌道の検討

○鉄軌道の導入で何を重視するのか

- ・那覇⇄名護間の1時間以内の定時性
- ・中南部の交通渋滞の軽減
- ・北部振興
- ・交通体系の骨格形成
- ・駅を拠点としたまちづくり

鉄軌道 の 相場観

- ・100万都市圏から地方への鉄道
- ・100万都市圏内のLRT
- ・狭い本島でのフィーダー線
- ・既存交通(高速道路、モノレール)との連携
- ・経済性
- ・建設まで長期間

【現状】

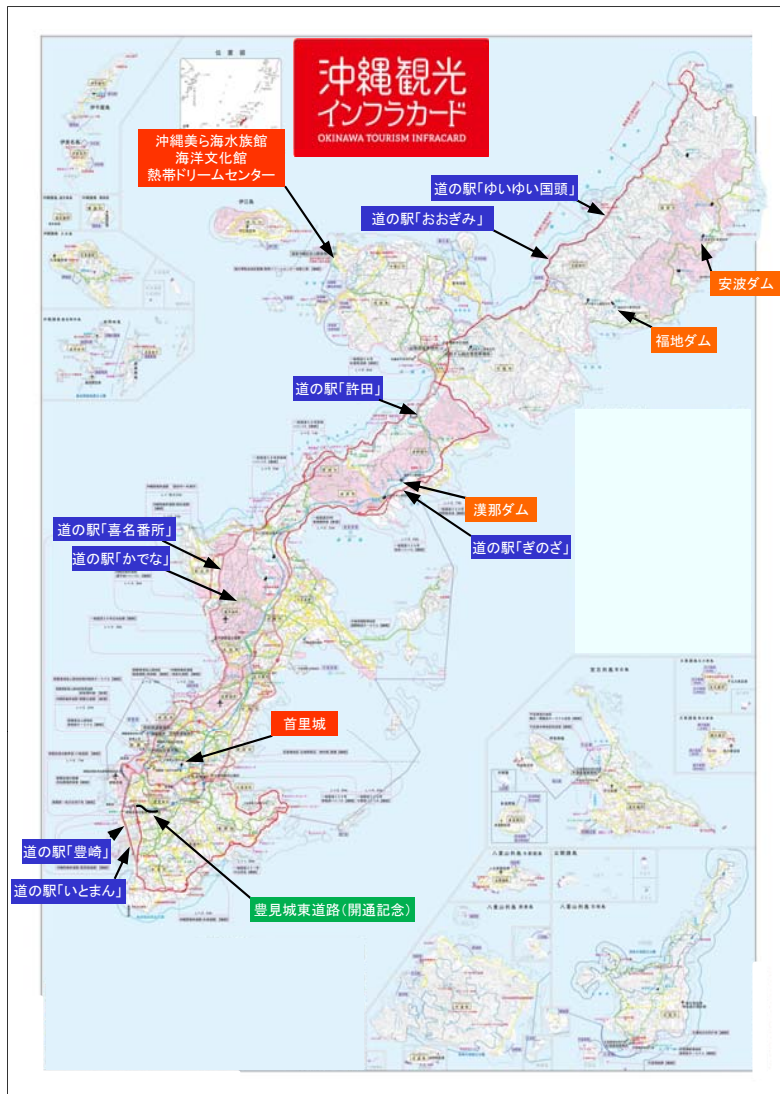
- ・現在、鉄軌道については、沖縄県、内閣府において調査中
- ・県内では様々な意見が存在
- ・琉球新報特集記事 交通大転換 復帰43年の岐路 1～7 平成27年5月13日～5月22日
 - ▶6 池田孝之氏に聞く「鉄軌道を骨格としてバスや次世代型路面電車(LRT)で支線を整備する県の構想を支持し、車と公共交通や公共交通機関同士の乗り換えがしやすい環境の整備が必要」
 - ▶7 上間清氏に聞く「モノレールなど中量級の公共交通を渋滞が激しい本島中南部を中心に拡大」

【相場観から思うこと】

- ・那覇⇄名護1時間以内を短期間の建設で経済性も考慮すると、沖縄西海岸道路及び沖縄自動車道による高速バスの案も。ただし、鉄軌道ではない。
- ・中南部の都市圏でモノレールとLRTの組み合わせ。まちの骨格形成、再編を合わせて実施。
- ・長期目標を目指すのか、現実的な目標を設定するのか。ビジョンをどのように持つか。
- ・単線区間の鉄道は寂しい。

沖縄観光インフラカード

- 観光客を含め一般の方に、観光に貢献するインフラについて、広く容易に理解してもらうため、インフラ施設を対象とした「沖縄観光インフラカード」を作成。
- 「沖縄観光インフラカード」は、収集を楽しみながら、観光とインフラの関係を理解することができるとともに、観光の満足度の向上や誘客につながることを期待される。
- 観光振興に貢献する情報インフラ。



【沖縄北部ダムツーリズム】



【道の駅】



【国営沖縄記念公園】



【開通記念】



沖縄観光インフラカードの特徴 —デザイン—

- カードは、統一したデザインと仕様で作成し、カードの表側が写真、裏側を説明。
- デザイン面では、3つの特徴を有している。(1)斬新なデザインのシンボルマーク、(2)セピア調のアンティーク感を持った写真、(3)背景の色は施設のシリーズがわかるように区分。
- デザイン及びシンボルマークは、東京学芸大学の吉富准教授、正木准教授と学生によるチームに依頼。

沖縄観光インフラカード例

沖縄北部ダムツーリズム「安波ダム」
88mm



(1) 斬新なデザインのシンボルマーク



このシンボルマークは、【見】という漢字が造形的モチーフになっています。「沖縄県の県章」を象った【目】にあたる部分は、新たな「観光」の可能性を展望するものであると同時に、それを支える【足】の部分が、新たな観光スポットとして注目される「インフラ」および観光を支える「インフラ」を象徴しています。また、こうした「観光地」を巡り、沖縄の魅力をたくさん「発見」しながら旅を満喫する観光客たちの姿を

表現したものであります。スタンプ風に仕立てたこのマークを今回の「沖縄観光インフラカード」に施すことで、それらを集める喜びや楽しさを演出するとともに、沖縄を訪れた人々の素敵な思い出の証となるようデザインしました。「沖縄観光インフラカード」は、各インフラ施設において統一したデザインと仕様で作成し、デザイン及びシンボルマークは、東京学芸大学の吉富准教授、正木准教授と学生のチームに依頼しました。

(2) セピア調のアンティーク感を持った写真

旅の思い出として、時間の観念を入れ、思い出風にセピア調にしている。また、セピア調により、格調高く仕上がっている。

(3) 背景の色は施設のシリーズがわかるように区分

ダムツーリズムはオレンジ、道の駅は青、公園は赤と施設のシリーズ毎に色を決めた。



沖縄観光インフラカードの特徴 – SNSの活用 –

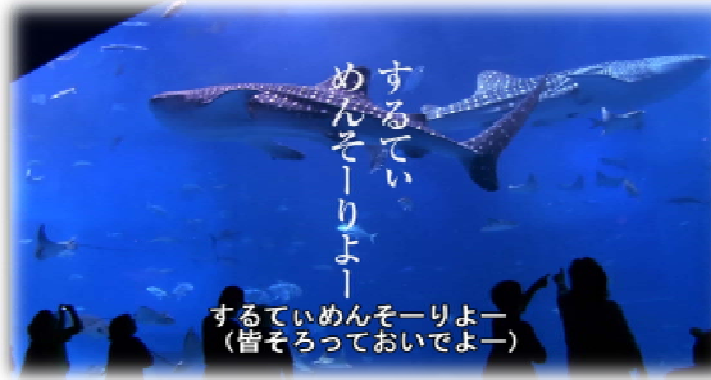
○沖縄北部ダムツーリズムの安波ダム及び国営沖縄記念公園の沖縄美ら海水族館、首里城、海洋文化館、熱帯ドリームセンターのカードでは、裏面に記載されているQRコードより、動画を見ることができる。

安波ダム
「シゲランファアの滝」



ダム湖面からしか見られない幻とされる「シゲランファアの滝」が動画で見ることができます。

沖縄美ら海水族館



黒潮水槽の中でゆうゆうと泳ぐジンベエザメと一緒にいるような動画と沖縄の方言をお楽しみ頂けます。

首里城



首里城公園「新春の宴」の厳かな儀式の様子を動画で見ることができます。

海洋文化館



広大な海を越えた人々の歴史と文化を伝える展示品を動画で見ることができます。

熱帯ドリームセンター



熱帯ドリームセンターで咲き誇るランの花々や南国の植物を動画で見ることができます。

なぜカードの活用なのか

- カードの優位性を分析
- カードの実績、話題性、マニアの存在に着目
- アナログのカードとデジタルのSNSの組み合わせの活用
- カードホルダーなど付属品の導入による効果
- 観光とインフラの姉妹カードの発行による相乗効果



- ・カードとSNSという情報インフラの活用
シナリオ「情報発信の充実」の一環
- ・観光ネットワークの形成
- ・観光とインフラの融合を実感
インフラにもエンターテインメントの要素

カードの優位性

- ・写真や図によるわかりやすい表現
- ・小さな紙面に簡潔な内容
- ・集める楽しみの付加(コレクション)
- ・作成が安価(約20円/枚)
- ・作成の容易性(規格品の用紙に印刷)
- ・対象世代が広い
- ・ゲーム性の要素を有する

SNSやホルダーの活用

- ・QRコードやアプリ開発により、SNSとの組み合わせが可能となり、パフォーマンスの充実
- ・カードホルダーの導入により、ネットワークやストーリーが作成できる(コレクションの性格が明確化)

実績、話題性

- ・カードは、プロ野球、漫画の仮面ライダー、ポケットモンスターなど国民的な流行の実績あり
- ・流行とともに話題性が大きい(マスコミやインターネット等に掲載)
- ・ダムカードにもマニアが存在

観光カードとの相乗効果

- ・観光ネットワークの形成
- ・コレクションの形成が容易
(コンパクトなエリアに対象施設が集積)
- ・集める中で観光とインフラの融合を実感
(観光とインフラの両方が自然に集まる)
- ・インセンティブの付与が可能

沖縄観光インフラカード ー工事現場シリーズー

○工事中のインフラ施設においても、土木の魅力を広く知ってもらうため、工事の特徴や土木の技術などを紹介する工事現場のカードを作成している。

○現場見学やパネル展など広く土木の魅力をPRする機会に活用。

工事現場の魅力を発信！

○工事請負者による工事現場の紹介。

- ・インフラカードを活用した、工事のPR
- ・パネルによる現場案内

○現場パネル展による土木の魅力を発信

- ・各現場の説明用パネルを用いて「現場パネル展」を開催

【事例】

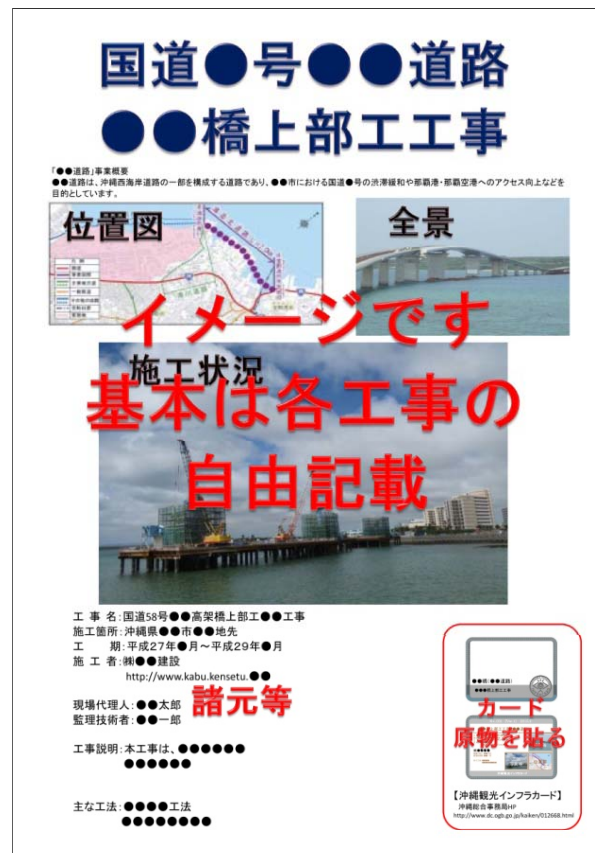
① ●●●道路●●●橋上部工工事

- ・工事紹介
- ・工種、作業工程 等

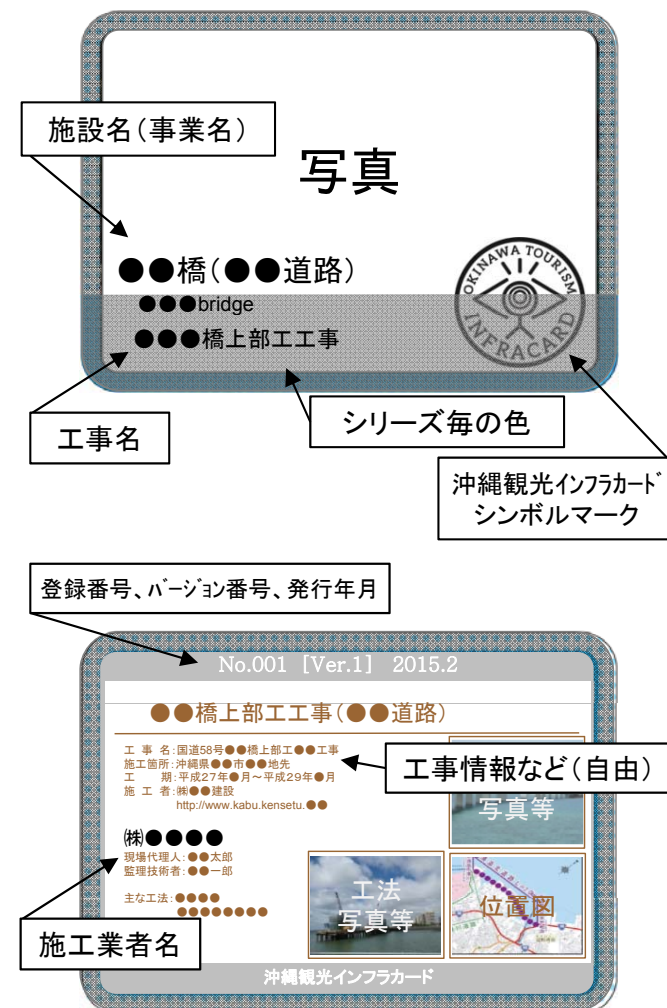
② ●●●道路●●●トンネル工事

- ・工事紹介
- ・トンネル掘削状況 等

パネルのイメージ



沖縄観光インフラカード



ご清聴有難うございました。

本日の講演内容は、沖縄総合事務局
開発建設部のホームページ
「観光とインフラ整備」で公表します。

開発建設部HP <http://www.dc.ogb.go.jp/kaiken/012480.html>